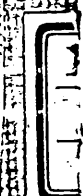
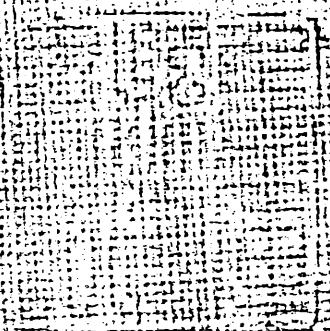


兵庫縣漁業慣行錄

鹹水漁業之部

卷之十



兵庫縣漁業慣行録卷之十

鹹水漁業之部

播磨國飾東郡

第一章 漁制

第一款 技類

第一項 保護ニ関スル事

第二項 漁税ニ関スル事

木場村

舊藩時代ニハ運上金ト唱ヘ年々銀札三分五厘ヲ納メ
維新後明治七年迄續ヒテ其額ヲ納メシヨリ同八年ヨリ
廢税トナレリ

白濱村

舊藩時代ニハ漁業運上トシテ年々地曳網漁ニ銀拾六
匁中高網漁、手操網漁、坪網漁ニ各銀八匁、投網漁ニ銀一

又海役トシテ銀五匁ヲ納メ維新後明治七年迄續ヒテ
其額ヲ納メシカ同八年ヨリ廢稅トナレリ
妻麻村

舊藩時代ニ運上鋪ト唱ヘ鋪三百枚宛ニ目下ヨリ尾端
寸ヲ毎年五月曆陰飾磨津出張所へ献上スル慣例ナリニ
カ維新後廢ヒラル而シテ運上金ト稱シ一ケ年ニ付銀
札八拾匁宛納メ明治七年ニテ續ヒテ尚其額ヲ納メシ
カ同八年ヨリ廢稅トナレリ

阿成村

舊藩時代ニハ運上トシテ鰯魚役銀四十八匁五分、投網
ハ銀四匁、立網ハ銀五匁四分、鰯魚網ハ銀十匁ヲ納メ維
新後尚續ヒテ其額ヲ納メシカ同八年ヨリ廢稅トナレ
リ

下中島村

旧藩時代ニハ運上トシテ走リ鰯魚役ニ銀四拾八匁
五分、投網鰯魚役ニ銀六匁ヲ納メ維新後尚續ヒテ其額
ヲ納メシカ明治八年ヨリ廢稅トナレリ

飾磨津宮町

旧藩時代ニハ運上トシテ釣繩一艘分銀一匁、狩引投籠
一艘分銀二匁、鰯魚立網一艘分銀六匁、鰯魚立流一艘分銀
六匁ヲ納メ維新後尚續ヒテ其額ヲ納メシカ明治八年
ヨリ廢稅トナレリ

飾磨津大町

旧藩時代ニハ運上トシテ釣繩一艘分銀一匁ヲ納ム以
下宮町ニ全シ

飾磨津天神町

本町ハ明治十年頃ヨリノ創業ニ係リ従来納税セシ
十ニ

飾磨津須加町

旧藩時代ニハ運上トシテ敲網一艘各銀二匁、手操網一艘各銀二匁、坪網一艘各銀二匁ヲ納ム以下宮町ニ至リ

飾磨津田町

本町ハ明治八年頃ヨリノ創業ニ係リ従来納税セシ
十ニ

飾磨津上英加町

本町ハ明治十年頃ヨリノ創業ニ係リ従来納税セシ
十ニ

飾磨津御幸町

本町ハ明治十八年ヨリノ創業ニ係リ従来納税セシ
十ニ

十ニ

家島宮浦

舊藩時代ニハ海役運上トシテ銀若干ヲ納メ寛延二年
漢業ノ種類ニヨリ漢業札ヲ下付セラレ具種類ニ應
テ運上ヲ納ム即チ定海役銀三十拾目、中高網札十三枚、同
八十目、鱧釣札七枚、同七匁、鱸釣札十一枚、同十一匁、鰯釣
札三十枚、同三十目、手操網札六枚、同一匁、五厘、鯛鼓網札
五枚、同十匁、鰹釣札五枚、同五匁、流瀬網札廿五枚、同五十
目、中高小網札十四枚、同二十八匁、鯨網札一枚、同二匁、港
内運上同三十目、入目銀二分四厘ナリ維新後尚續ヒテ
之レヲ納メ明治七年ニ至リ海稅ト改メ金二圓十六錢
三厘ヲ納メシカ同八年ニ至リ廢稅トナレリ

家島防勢浦

田藩時代ニハ海役運上トシテ宮浦上納銀ハ二分半ヲ納メ維新後尚續ヒテ具額ヲ納メシカ明治八年ニ至リ廢稅トナレリ

家島真浦

田藩時代ニハ運上銀トシテ定海役銀三拾目、中高綱同ハ拾目、手操綱同九匁、鯛敲綱同十匁、中高小綱同二十八匁、大為持綱同二拾一匁、御用金納金ニ匁、生海鼠九十匁ヲ納メ維新後尚續ヒテ具額ヲ納メシカ明治八年ニ至リ廢稅トナレリ

第三項 其他ニ關スル事

妻麻村

舊藩時代ニハ毎年水夫三人又ハ五人ヲ九月三十日使役セラレ扶持米トシテ一日一人ニ付米五合ヲ支給セラ

ル又村内ヨリハ其家族恤救金ヲ募集シ尚ホ之レヲ救助スルノ慣例アリタリ

第二款 規約及慣例

第一項 保護ニ関スル事

水場村

漁具 中高網ハ不良ノ漁具ナリ以テ明治十四年加

古、印南、飾西、揖東、揖西及本郡沿海漁村ト使用停止ノ

規約ヲナセリ規約書ハ参考書印南
郡第一号ニ掲載ス

漁法 鰯魚立網、鰯立籠、使用ノ中ハ其場ニ限り一度叩

ク1ヲ規約セリ規約書ハ参考書印南
郡第一号ニ掲載ス

白濱村

漁具 中高網使用停止ノ水場村ニ全ク

漁法 手操網漁ハ甲者先リ網ヲ投ニタレ其ハ乙丙者

ハ甲者其網ヲ揚ケルニアラサレハ自己ノ網ヲ入レ

サルノ慣行ナリ○地曳網ハ魚族ノ群集ヲ目撃セ

モノヨリ網ヲ投ル、慣行ナリ然レモ若シ乙者申者ニ先テ網ヲ投セントスルハ協議、上談捕獲物、幾分ヲ申ニ分與スルナリ○坪網ハ各其持場ヲ定ムトモ時トシテ談漁者抽籤ヲ以テ一年乃至二年其持場ヲ交換スルナリ○鰯鰯魚立網使用法、水場村ニ同シ

妻鹿村

漁期 鰯魚ハ漁期ヲ七月ヨリ十二月マテトシ其他ノ間ニ於テ産卵生長ノ暇ヲ與フルノ例ナリ

漁具 中高網使用停止、事水場村ニ同シ

漁法 手操網漁ノ法ハ白濱村ニ同シ立網漁ハ一月ヨリ四月迄毎日抽籤ヲ以テ漁場ヲ定メ他人ノ入漁ヲ許サズ其他五月ヨリ十二月迄ハ其目撃シタル者ヨ

リ經ヲ入レ他ノ者之レニ入ルヲ得サルノ法ナリ○鰯魚、鰯魚立網使用、事水場村ニ同シ○延繩ヲ配ルニ他人ノ延繩ノ上ニ過テ配置シタルハ双方共ニ船ヲ並列ニテ具釣ヲ揚ク若シ場所隔離スル場合ニ於テハ乗組立合、甲船ハ一人、乙一人、乗組、上總揚ケスルノ法ナリ

阿成村 下中島村

漁具 中高網使用停止、事水場村ニ同シ

漁法 鰯鰯魚立網使用法、事水場村ニ同シ

飾磨津宮町

漁具 中高網使用停止、事水場村ニ同シ

漁場 月々セ經漁場ハ慶應三年家島漁浦ト約シ期節ニヨリ其場所ヲ取定メリ規約書ハ参考書飾東郡第一号ニ掲載ス

漁法 鰯、鰯魚之網使用、事木場村 = 同之

飾磨津大町

漁具 中高網使用停止、事木場村 = 同之

漁場 内々七網漁場、事宮町 = 同之

漁法 鰯、鰯魚之網使用、事木場村 = 同之

飾磨津天神町

漁具 中高網使用停止、事木場村 = 同之

漁法 鰯、鰯魚之網使用、事木場村 = 同之

飾磨津須加町

漁具 中高網使用停止、事木場村 = 同之

漁場 内々七網漁場、事宮町 = 同之

漁法 鰯、鰯魚之網使用、事木場村 = 同之

飾磨津田町 同上英加町 同御幸町

漁具 中高網使用停止、事木場村 = 同之

漁法 鰯、鰯魚之網使用、事木場村 = 同之

家島宮浦

漁法 地漕、鰯網漁、豫マ区域ヲ定メ抽籤ヲ以テ順次

漁業ヲナスノ慣例ナリ然ルニ甲者若シ休業スルハ

ハ乙者ハ甲者ニ示談ヲ遂ケテ漁業ヲナスヲ得否ヲ

サレモノハ之レヲ折半スルヲ例トス○鰯網漁ハ魚

見ノ者山上ニ上リテ其群集ヲ認メ網船ヲ指揮スル

ヲ例トス然ルニ甲組ノ魚見者指揮スルモ遠隔ノ為

メ乙組ノ網船其近傍ニアルヲ以テ之レヲ漁スルナ

リ此場合ニ於テハ該捕獲魚ヲ折半スルノ慣行ナ

リ○拵繩漁業ニ順次番号ヲ立テ抽籤ヲ以テ配置ス

ルヲ例トス然リトモ漁者多数ノ為メ漁場充分ナ

ラナル片ハ双方示談ノ上一旦配置セ之上ニ再ヒ配
置スルナリ此場合ニハ後ニ配置セシモノヨリ引
揚クルヲ例トス然レモ示談ナリ配置セタル片ハ相
當ノ償ヒヲナサシムルナリ

家島防勢浦

漁法 地漕網及鰯網漁ノ事宮浦ニ同シ

家島真浦

漁法 鰯敷網ハ節分ヨリ六十三夜ヲ期トシ始テ船
出ヲナスノ申合セナリ又甲漁者既ニ鰯ヲ入レタル
ニ乙漁者多少其場所ヲ避ケ網ヲ入ルモ若シ甲者ニ
妨害ヲ與エシナリ片ハ酒料ヲ出シテ之レヲ託ヒ
ルナリ○鰯網ハ十八夜十日前ヲ期トシ始テ
テ船出ヲナス○鰯網ハ十八夜ヲ期シ船出ヲナシ

沖合ニテ魚族ノ群集ヲ甲乙漁者同時ニ目撃セシ片
ハ示談ノ上甲ノ漁船ハ乙漁者乗込ニ捕漁ス而シテ
其利益ヲ折半シ或ハ甲者ニ六分乙者ニ四分ヲ分配
スルナリ○鰯網漁ハ場所ヲ定メテ之レヲ捕獲ス
故ニ他ノ漁者妄リニ侵入スルヲ許サス

第二項 漁業ニ関スル事

第一節 漁權

水場村

水村字水庭山沖合即チ東、印南郡福泊村境ヨリ西、水郡
八家港ニ至ル五丁沖手へ拾丁ノ間ハ坪網漁場ニシテ
往古ヨリ連綿タリ

白濱村

東、加古郡古宮村ヨリ西、揖西郡室津ニテ九拾里、沖手へ

凡七里間ハ舊姫路藩領内各村入會漁場トス
 坪細漁場ハ本村地先ニシテ漁具ヲ常置スル所ナリ故
 ニ專有ノ姿ニテ往昔ヨリ連綿タリ
 中高經漁ハ明治五年七八月頃盛ニシテ漁ヒシカ小職漁
 者ト爭論ヲ生シ其末田飾磨縣ニ於テ一時禁止ノ令ヲ
 シ凡全八年再興ヲ歎願シ本村ノ内田宇佐崎木場印南
 郡福泊の形ノ四ヶ村ノ地先ニ限リ漁業スルヲ許サ
 レタリ

妻鹿村

入會漁場ノ一白濱村ニ同シ

阿成村

東加古郡高砂ヨリ西揖西郡蒔屋村ニ至ル凡六里沖手
 ハ凡三里ノ間ハ本村漁場ニシテ該沿海漁村ノ入會ト

下中島村

東加古郡別府邸ヨリ西揖西郡蒔屋村ニシテ凡七里沖手
 ハ八丁以内ヲ以テ漁場トシ沿海漁村ノ入會トス

飾磨津宮町

鯉、鯛ノ釣漁場ハ東古宮村前ヨリ西室津ニ至ル凡十一
 里南家島ノ内松島沖ニ至ル其距離凡三里迄トシ沿海
 各地漁村ノ入會トス但兵庫漁者ハ入漁ヲ許セシトア
リ詳細ハ参考書飾東
郡第ニ号ニ掲載ス

飾磨津大町

東加古郡二見村ヨリ西赤穂郡赤穂ニ至ル凡十五里沖
 手ハ凡五里ノ間ハ沿海漁村ノ入會漁場トス

飾磨津天神町

東加古郡高砂ヨリ西、揖西郡葭屋村ニ至ル凡七里、沖手
ハ凡二丁乃至八丁以内ハ沿海漁村入會漁場トス
飾磨津須加町

飾磨津海岸ヨリ沖手ハ凡六丁、所ニ於テ東西五十間、
南北百五十間ノ間及ヒ飾西郡今在家村地先キ字船手
新田前海岸ヨリ沖手八丁、所ニ於テ東西五十間、南北
百五十間ノ間、ニテ所ハ當町鯨網漁共有漁場ニシテ
往古ヨリ連綿タリ

飾磨津田町 全上英加町 全御幸町
本村漁場ハ天神町ニ同シ但沖手ハ十丁乃至三十五六
丁トス

家島宮浦

本島ヨリ東、字天神鼻ヨリ上島沖ニ至ル凡六里西、字徳

崎ヨリ院下島ハ凡三里合計九里ノ間、又北、字天神鼻ヨ
リ揖西郡沿海ニ至ル凡三里、字觀音崎ヨリ白濱タチ當
リニ至ル凡五里半合計八里半ノ海面ハ本島共有ノ漁
場ニシテ往古ヨリ他方漁夫ノ入會ヲ許サス

字三ツ合漁場ハ讚岐、淡路兩國及本島ノ入會漁場トシ
又字マ、ノ瀬、瀨、淡路西浦及本島ノ入會漁場トス
本浦諸灣ニ於テ冬季屢諸魚ノ群来スルヲアリ此場合
ニハ其魚ハ望ノ者ニ捕漁セシメ而シテ其捕獲高ノ六分

ヲ徴收シ以テ浦費ニ充テリ
以上陳述セル如ク本島漁場ハ妄リニ他ヨリ入會スル
トチ許サス然ルニ文政五年ノ頃攝州兵庫總拵總漁業
者妄リニ入漁シタルヲ以テ旧姫路領主ハ許シカテ天
領私領ノ別アルヲ以テ大坂番所ニ移サレ全七年コテ

兵庫縣

三ヶ年間経過ノ 遂ニ兵庫ノ漁船ハ七艘ニ限り入漁
ヲ許ストト裁判アリタリシカ又天保六年ノ頃加古郡
高砂漁夫侵入ニ本島ノ嶼ニ於テ立網漁業ヲ営ミタル
ニ依リ直ニ田領主ヘ訴ヘ全七ヶ年迄二ヶ年間争論ノ末
遂ニ字上島ニ限り入會ヲ許ストトナリタリ

家島防勢浦 全真浦
入會漁場ノ 1 宮浦ニ全シ

第二節 仲間加入ノ仕来

妻鹿村

本邸ノ者新ニ漁業ヲ営マントスル片ハ先ツ漁者ノ兼
諾ヲ終ヘ本廳ヘ出願シ具許可ヲ得ルニアラサレハ之
レヲ許サス此場合ニハ新漁者ハ仲間入ト称シ漁者一
統ニ酒五升金三圓ヲ遣テルヲ法トス若シ此手續ヲ十

サ、レハ加入スルヲ得ル

阿成村

新規加入ノ事妻鹿村ニ全シ但シ仲間入金ニ圓五拾銭
トス

下中島村

新規加入セントスル片ハ仲間入ト称シ酒壹升ヲ贈ル
ノ例ナリ

銘磨津宮町 全大町 全須加町

新規加入セントスル片ハ仲間入ト称シ酒壹升ニ肴料
ヲ添ヘテ贈與スルノ例ナリ

家島宮浦 全防勢浦

本浦ノ漁者従前拵繩ニ限り新規營業ノ片ハ仲間入ト
シテ銀三拾五匁ヲ漁者一統ヘ出金シテ加入ヲ許セ

兵庫縣

カ維新後其例廢セリ

家島真浦

新規加入セントスル片ハ仲間入ト稱シ酒五升金一圓
五拾錢ヲ贈ル例ニシテ若シ此手順ヲ十寸、ル片ハ之
レヲ許サス

第三節

他方、漁夫未漁ニ係ル手續

白濱村

他方、漁者本村地先ニ於テ採網漁業ヲ行ハスル
中ハ明治初年頃迄ハ網代塲貸料トシテ該網一疊ニ付
一ヶ年金一圓ヲ村方ニ徵收該時費ニ村方充ツセリ近年
ニ至リ自然廢絶セリ

家島宮浦

同防勢浦 同真浦

赤穂郡相生村縮網漁者ハ弘化年度已来毎年始メニ當

リ網主村君トモノ酒料トシテ金拾圓又ハ五圓ヲ本

島三浦漁者へ送付シ来リテ海岸入漁ヲ請求シ即チ之

レヲ許スノ慣行ナリシカ明治十七年頃ヨリ金三拾五

圓ニ改メタリ左モ右ノ如ク定ムト魚モ若シ妨害ナシ

ス片ハ之レヲ許サ、ルモトス妨害ナシハ以下皆全

揖西郡岩見村白子鰯網漁者ハ明治十四年ヨリ酒料ト

シテ金若干ヲ本島三浦漁者へ送付シ入漁ヲ請求セシ

ニヨリ全十七年ヨリ網一艘ニ付金五圓ヲ、ヲ徴シ之

レヲ許スエト、ナセリ

同郡室津全漁者全前ニヨリ明治十四年ヨリ一艘ニ付

金二圓宛ヲ徴シ之レヲ許スナトナセリ

同郡刈屋村同漁者ニハ明治十八年以來全額ノ金ヲ徴

シ入漁ヲ許スナトナセリ

赤穂郡板越村全漁者ニハ明治十九年以來金三圓五拾
錢ヲ徴シ入漁ヲ許ストナセリ

同郡中村延繩漁者ナリ藻魚延繩漁業ノ為メ入漁ヲ請
求セシニヨリ明治十九年ヨリ本島三浦漁者ハ年々金

拾五圓宛ノ酒料ヲ徴シ之ヲ許ストナセリ
備前国和氣郡日生浦籍流セ網漁者嘉永初年來毎年本

島三浦漁者ハ金若干ヲ出シ入漁ヲ請求セシニヨリ之
レヲ許ス當今ハ該金額三拾五圓ト定メタリ

全郡徳浪村海鼠捕漁者ハ從來本島海岸入漁ヲ黙許セ
シカ明治十四年ヨリ年々本島三浦漁者ハ金五圓ヲ出

カシメテ入漁セシメシカ全十九年ヨリ金拾圓ト定メ
タリ
讃岐小豆島漁者ニハ明治十四年ヨリ毎年金五圓ヲ徴

シ入漁ヲ許セリ
以上ハ他方漁者ニ入漁ヲ許セシ大要ナリ而シテ該徴

牧金ハ之ヲ折半シ一ハ真浦一ハ宮浦ノ所得トス防
勢浦ハ宮浦ヨリ其所得金ノ三分一ノ分配ヲ受ケルモ

トス但該金ハ漁業ニ関スル一切ノ諸入費或ハ漁船
大祭祈禱費等ノ臨時費ニ補充ス

第四節 販賣ノ仕方

木場村

捕漁セシ魚ハ重モニ沖合ニ於テ出買ト称スル商船ニ
賣却シ即金取引ヲナス又時宜ニヨリ印南郡福泊村魚

市場ニ輸送スルナリ然レモ僅カニ牧獲物ノ五分
ニ過キス但此際ハ向屋口錢ハ分トス

白濱村

捕漁セシ魚ハ直ニ本村市場へ運輸シ即金ヲ以テ取引
ス向屋口錢ハ一割トス

妻麻村

捕漁セシ魚類賣捌ノ一白濱村ニ全シ但時トシテ出買
船ニ賣却スルノアリ其割合凡百分ノ二トス

阿成村 下中島村

捕漁ノ内四艘張漁鰯魚ハ出買商船へ賣却ス該商ハ五
分ノ口錢ニシテ三日間ニ取引ス其他ハ妻麻村隣市場
へ運送シ一割ノ向屋口錢ヲ以テ即金取引ヲナスノ例
ナリ

飾磨津宮町 全大町 全須加町 全上美加町 全徳幸町 全田町

捕漁セシ魚ハ直ニ当津市場へ運輸シ即金ニテ販賣ス
向屋口錢ハ二割ニ一田二付二ニシテ内一割ニ分ハ仲買商

へ拂戻ス捕獲物ノ十分ノ四ハ沖合ニ於テ出買船ニ即
金ヲ以テ販賣ス

飾磨津天神町

捕漁セシ魚類ハ即金ニテ小賣ス又鰯ノ餌料工ノハ向
波、淡路漁者ノ購求ニ應シ販賣ス

家島宮浦

鰯、鰹魚ハ出買商船ニ即金ヲ以テ販賣シ或ハ資本主方親
ヲ唱ノ仕込金及飯米等ノ借入ニ對シ辨償ノ為メ皆之
レヲ資本主ニ賣渡シ而シテ漁事了リタル後動定ヲ十
ス又眞仲買ハ大坂、尼ヶ崎、兵庫ニ於テ販賣ス向屋口錢
ハ二割トス

鰯魚ハ直ニ附属漁船ニ積ミ入レ攝播間ノ市場へ輸送
シ即金ヲ以テ販賣ス向屋口錢ハ二割トス

家島防勢浦

鰯魚ハ直チニ煮乾イリホシニトナシ藁俵ニ入レ貯蔵ニ置キ仲
 買船ノルヲ待テ即金ニテ販賣ス又大澳ノ片ハ播磨
 地方ノ市場へ運輸ニ即金ニテ販賣ス但市場口錢ハ二
 割トス若シ運輸スルノ能ハサル場合ニハ海濱ニ平干
ノホフトトニ或ハ肥料トナストアリ
 鰯魚ハ多ク澳者自家へ積歸リ塩切トナシ暫時貯蓄ニ
 テ後賣却ス大澳ノ片ハ直ニ播磨地方ノ市場へ運輸ニ
 即金ヲ以テ賣却ス市場口錢ハ二割トス
 大口々セ網捕澳海鰻鱺、鱈、鯖、烏賊、大小鰆、鯧、鮓、海鮃ハ概
 テ即金ニテ出買商船ニ賣却ス又雜喉片々セ、手操網ノ
 捕澳及鰯魚ハ毎朝播磨地方ノ市場へ運輸ニ即金ヲ以
 テ賣却ス向屋口錢ハ二割トス

家島真浦

鰯、鯖、鰆魚ハ資本主親方トヨリ出買商船ニ賣却ス但シ
 澳者資本主ヨリ借入タル金米等ハ澳事終リタル后勤
 定チナシテ辨償スルノ習慣ナリ若シ大澳ノ片ハ播磨
 地方ノ市場へ送リ即金ニテ販賣ス向屋口錢ハ二割ト
 ス
 鰯魚雜喉販賣ノ一宮浦ニ全ク

捕澳セシ魚ハ總テ明石、高砂、荒井、錦磨、經干等諸港ノ市
 場へ運搬ニ即金ヲ以テ販賣ス向屋口錢ハ一割五歩ト
 ス但出買商船賣却手續ハ前防勢浦ニ全ク而シテ其高
 允捕獲ノ三割トス
 第五節 漁村維持并ニ救恤

漁船若シ颶風等ノ難ニ罹ル片ハ直ニ危險ヲ冒シテ之レ

才救援スルノ例ナリ但飾磨津ニ在テハ渾船若ニ行衛知
レサルハ七日間迄ハ搜索ヲナシ又妻鹿村ニ在テハ平
素渾獲金ノ内一割乃至一割五分問屋ニ積古言引又置キ豫メ本文ノ如キ不慮ノ遭難救助費ニ備フ若シ其年
無事ナリレハ七月、十二月陰曆之レヲ他ニ使用スルノ
慣行ナリ

第三項 雜事

水場村

雜件 毎月廿八日陰大ハ殺生日ト称シ從來休業ス

白濱村

祝ヒ 地曳經ニテ出渾セントスル時其手配リ全ク終
ル之レヲ經却ニト称シ雇夫ト共ニ祝宴ヲ開リ又大
渾ノ節ハ酒及ヒ握リ飯等ヲ雇夫ニ給シ又渾事終リ

相當收利アレハ雇夫鮮最ノ片經揚ケト称シ酒飯等
ヲ以テ饗應スルナリニカ近來ハ不渾ナルヲ以テ
自然廢絶セリ

雇夫給食 雇夫ニ食事ヲ給スルハ朝五時、昼十一時、夕
五時ノ三度トス飯ノ添ニハ菜漬或ハ味噌等ヲ用ウ
祭祀禁忌 渾夫ノ信仰スル所ノ神ハ金比羅神ハ幡神
ナリ又七月龍神祭リト称シ沖手ニ向ヒ祀壇ヲ設ケ
神酒等ヲ備ヘ神官ヲ聘シテ祭祀ヲナス

妻鹿村

祭祀禁忌 渾夫ノ信仰スル所ノ神ハ具數凡七八アリ
就中歸依スルモノハ金比羅神ハ幡神ニシテ最モ歸依
スルモノハ金比羅神ナリ而シテ渾期中陰曆正月廿
日ヲ惠美須祭全廿七日ヲ龍神祭三月廿八日ヲ湯神

樂ト称ニ何レモ大漁ヲ祈リ或ハ慰勞ノ為ノ集合ニ
テ祝宴ヲ張レリ

阿成村

祝ヒ 鰯魚四艘張漁ハ從前出漁セトスル片及ヒ漁
事終リタルトキ^アトガリマ^リ雇夫ヲ饗スル事白濱村ニ
全ニ

飾磨津宮町 全大町 全須加町 全上英加町

祝ヒ 出漁セトスル片逢出ト唱ヘ家族及雇夫共祝
宴ヲ張ルノ慣習アリ但各自適宜ニシテ其手續一定
セス

祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スル神ハ氏神及蛭子神ニシテ
六月一日^陰同休業ニ酒饌ヲ供シ大漁ヲ祈レリ○
漁戸ニ産婦アルモ之ヲ忌マス又父子ノ表中ト虽

モ別ニ休業セサルノ例ナリ

飾磨津田町 全御幸町

祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スル所ノ神ハ氏神トス○漁戸
ニ産婦アリ又ハ父子ノ表ニ係ル片ハ三週間休業ス
ルノ例ナリ

家島宮浦 全防勢浦

祝ヒ 出漁セトスル片及ヒ漁業終リタル片^{漁仕舞}
雇夫ヲ饗スルト白濱村ニ全ニ○鰯鯖大漁ノ片ハ村
君ハ之レヲ祝ヒテ雇夫一同ヘ揃ヒノ紅深手拭ヲ給
與ヒ又其漁獲物ヲ村内一艘ニ贈與スルナリ
雇夫給食 雇夫ニ食事ヲ給スルハ朝五時、昼十一時及
夕七時ノ三度トス而メ其食ニ就ク片ハ一同相集リ
船頭已下順次ニ坐列ヒテ喫食ス飯ノ添ニハ談漁獲

、魚ヲ取り醬油ヲ以テ調理シタルモノトス若シ
 漁魚ナキハ、菜漬ヲ與フ飲料ハ湯又ハ水ヲ以テス
 若シ就業中食スル、暇ナキハ握リ飯ヲ給スルナ
 アリ
 祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スル所ノ神ハ其教三就中格段
 二信仰スル神ハ蛭子神ニシテ漁期中時々祭祀シテ
 大漁ヲ祈ル祭祀終レハ神酒供飯ハ漁者一同ニ分配
 ス其時村君主經ヨリハ酒若干ヲ出シテ酒宴ヲ催シ當
 日ヲ祝シ且漁期中ノ勞ヲ慰メ又漁業ニ関スル一切
 ノ事項ヲ談話スルノ例ナリ○漁業中過テ芥及庖丁
 等ノ船具ヲ海中ニ落セシハ海神ノ崇リア○トナ
 シ漁獲ノ多少ニ限ラズ直ニ歸村ニ社參シテ祈禱ヲ
 ナシ其厄ヲ拂フノ例ナリ

家島真浦

祝ヒ 鱸、鯖、鰯、鰯等出漁セントスル所及大漁ノ所之レ
 ヲ祝スル丁宮浦ニ全シ但雇夫ノ人数揃フ之レヲ願
 揃ヒ又漁業終リ雇夫ヲ解散セシムル之レヲ願分レ
 ト云ヒ共ニ相集リ索麵、酒等ヲ以テ之レヲ饗應スル
 ナリ

雇夫給食 雇夫ニ食事ヲ給スルハ朝五時、昼十時、午后
 三時、全七時ノ四度トス食事ノ時ハ撃柝ヲ以テ合圖
 トナシテ雇夫ヲ集メ船頭以下順次ニ坐列シ喫飯セ
 シム飯ノ添ニハ菜漬梅干味噌トス又魚ヲ煮ルニハ
 醬油若クハ塩ヲ以テス而シテ飲料ハ専ラ湯又ハ水ト
 ス

祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スル神ハ其教凡六就中最モ歸

依スルモ、ハ金比羅神ニシテ漢期中三月三日湯神
 樂祭四月廿日惠美須祭六月廿七日以上共陰曆龍神祭ト
 唱ハ祭典ヲ行ヒ大漢ヲ祈リ又祝宴ヲ張リテ之レヲ
 祝ヒ且漢期中、勞ヲ慰ムルモノトス

第三款 祀則違例ノ処分

水場村 白濱村 向成村 下中島村 飾磨津天神町

全田町 全上英加町 全御幸町

中高継使用停止ノ約ニ違フモノハ其漢具ヲ預ルノ約

ナリ規約書ハ参考書所南郡第一号ニ掲載ス

妻鹿村 家島真浦

他人ノ經中ハ石礫ヲ投シ或ハ碇ヲ却ス等妨害ヲナシ
 タルハ其情状ヲ審査シ船經共ニ引揚ケ漢業ヲ停止
 ス此場合ニ於テ加害者ハ不服ヲ云フヲ得ス然レトモ
 若シ之レヲ悔悟シ損害金ヲ辨償スルニ於テハ其停止
 ヲ解クノ例ナリ

中高継使用停止ノ約ニ違フモノ処分方水場村ニ全シ

飾磨津宮所 全大町 全須加町

キビ

上鳥賊

ヒツ貝

京

鱸

兵庫

第二項

大小輕重

鰯

孚化後三十日ヲ經過シテ一寸トナル之レヲ白子ト云
フ其年ノ大サニ寸五分或ハ三寸ニ至ル之レヲ大鰯ト
云フ最モ多キハ二寸五分許ノモノトス宮浦調査

烏賊

孚化後凡百五十日ヲ經過シ其量凡二十目トナル一ヶ
年ヲ經テ其量四五拾目トナル之レヲ佳味ノ時トス普
通多キ其量凡二拾目許ノモノトス妻麻村調

鰻

孚化後百日ヲ過キ二寸トナル之レヲヒツト云フ
其後百日ヲ過キ四寸トナル之レヲ鰻ト云フ

其年ノ大リ六寸五寸トナルニ年目ニ至ル一尺百目ト
ナル之レヲ小鰻ト云フ三年目ニ至ルハ大リ一尺三寸
ニ量凡トナル之レヲ鰻ト云フ最モ佳味ノ時トス村向調
査ニヨル

鰻

孚化生長ニタルモノハ其當歳ノ大サ二三寸トナル
凡三之レヲヒツト云フ其七八寸ニ至ルニ量凡之レヲ
ヤズト云フ後二ヶ年ニ至テ二尺七寸量凡五ヶ年目ニ至
テ二尺五六寸貫三量凡一トナル之レヲ鰻ト云フ之レヲ
最モ佳味ノ時トス而シテ普通多キハ七八寸許ノモノ
トス妻麻村調査ニヨ

鰻

孚化後凡二百五十日ヲ經過シ壹尺八寸百目量凡二ヶ年

兵庫

子經テ二尺五寸トナリ此量凡二百五十目最モ佳味ノ時ニシテ
普通多キハ一尺八寸許ノモノトス

蛤

泥中ニ生育シ孚化后一ケ年ニシテ經八分此量凡二分
年ニシテ徑一寸二分此量凡五分トナリ天神ヨリ

沙魚

孚化後一ケ年ニシテ四寸此量凡五分ニケ年ニシテ六寸此
九三トナリ此時ヲ佳味ノ時トス而シテ普通多キハ四
寸許ノモノトス須加所調

海鯽

孚化后六ケ月ヲ經過シ一二寸此量凡五分トナリ之レヲ子
又コト云フ二ケ年ニシテ六寸此量凡五分トナリ之レヲ子
又ト云フ三ケ年ニシテ一尺一寸此量凡五分及テ最モ佳

味ノ時トス此以調

大貝

泥中ニ生産ス後一ケ年ニシテ徑一寸五歩此量凡二分
年ニシテ徑二寸五分此量凡四分トナリ天神ヨリ

鯨

孚化後具年六七寸此量凡二百二十ケ年ニシテ凡一尺許
百四五三ケ年ニシテ凡一尺五寸許此量凡五百四ケ年ニ
シテ二尺許此量凡百一十九而シテ三月頃ヲ以テ最モ佳
味ノ時トス普通多キハ其量凡三百目ノモノトス瀨
調査ニ

蟹

孚化后一ケ年ニシテ其量八拾目二ケ年ニシテ百五拾
目トナリ之レヲ佳味ノ時トス普通多キハ其量八拾目

許ノモノトス 須加町調
査ニヨル

鯿

孚化后凡百五十日ヲ經過シ二寸許其年大サ五六寸量
十^九目^四翌年六月ニ至シハ凡一尺許トナル之ヲ最モ佳
味ノ時トス 査白濱村^ニ調^ル

鯛

孚化後生長シタルモノ其年ノ大サ三寸ニ至ル之ヲ
鯛子ト云フニケ年ニシテ六七寸^此量^凡三年ニシテ凡
一尺^此量^凡六^目二十^目四年ニシテ一尺三四寸^此量^凡トナル
五月頃ヲ以テ佳味ノ時トス 普通多キハ其量凡三四百
目ノモノトス

章魚

孚化後二百日ヲ經過其量凡六十目ニケ年ニシテ二百五

六十日三ケ年ニシテ凡百十日トナル而シテ七八月頃ノ
佳味ノ時トス 普通多キハ量目凡二三百目許ノモノト
ス 眞浦調査

ツボイ貝

泥中ニ生産ス 後一ケ年ニシテ徑七分^此量^凡一^八分^二ケ年ニ
シテ徑一寸^三此^量凡^ト十^九査^ニ神^ヨ町^ニ調^ル

鱒

一ケ年ニシテ四寸^此量^凡四^二ケ年ニシテ六寸^此量^凡七^ト
ナル之ヲ佳味ノ時トス 而シテ普通多キハ一ケ年ノモ
ノトス 田所調査

茗艮

一年ニシテ五寸^此量^凡六^二年ニシテ一尺^此量^凡トナル之
ニテ佳味ノ時トス 普通多キハ一ケ年ノモノトス 須加
町調

兵庫縣

系

查ニ
モトス

口黒鯛

別名ハスト云フ浮化後一ケ年ニシテ五寸此量六二ケ

年ニシテ一尺此量ニ三ケ年ニシテ一尺八寸此量三百

トナレ此レヲ佳味ノ時トス而シテ普通多キハ二ケ年ノ

モトトスニ宮野調査

竹煙

泥中ニ生産ス後一ケ年ニシテ徑二寸此量九二ケ年

ニシテ徑二寸五分此量トナレ天神町調査

真章魚

浮化後一ケ年ニシテ其量百目ニケ年ニシテ二百目ア

リ之レヲ佳味ノ時トス而シテ普通多キハ一ケ年ノモ

トス須加町調査

鰯

浮化生長后其年ノモノハ六サ四寸許此量九八二年ニ

シテ一尺此量百三年ニシテ一尺二寸此量百十

ル佳味ナレハ此時ニシテ六月頃ニ在リ普通多キハ七

八寸許ノモノトスニ真浦調査

鰯

浮化生長后其年ノモノハ九二寸此量一ケ年ニシテ五

寸此量九三トナレ十一月頃ヲ佳味ノ時トス普通多キ

ハ二寸許ノモノトスニ妻鹿村調査

蝦

浮化後八十日ヲ經過シテ九二寸此量一ケ年ニシテ四

五寸此量百ニ及フ十一月頃ヲ佳味ノ時トス普通多キ

ハ二寸許ノモノトスニ真浦調査

鱈

孚化後一ヶ年ニ至テ七寸ニ此量目百二ヶ年ニ至テ一尺ニ此量目二百トナル之レヲ最モ佳味ノ時トス普通多キハ一ヶ年ノモトス須加ヨ村調

手長章魚

孚化后二百日ヲ經過スレハ其量凡十匁、凡三百日目ニ至レハ其量凡二十目、後今二ヶ年ニ至テ其量凡四拾目ニ及フ之レヲ最モ佳味ノ時トス而シテ普通多キハ二十目許ノモトス妻鹿村以下調査ニ

海鰻鰻

孚化后二百日ヲ經過シ六寸ハ此量凡七一ヶ年ニ至テ八寸此量凡三ヶ年ニ至テ一尺二三寸此量凡四トナル之レヲ最モ佳味ノ時トス而シテ普通多キハ八寸許ノモトス

鰻

孚化後五十日ヲ經過シ二寸其年ノ大リ三寸ニ至レ之レヲセ^可ニト云フ二年ニ至テ五寸此量三三年目ニ至テ八寸此量五ニ及フモノアリ普通多キハ八寸許ノモトス宮浦調査

アカヲ

三月頃ニ生産ス其後七月ニ至レハ四寸此量十十月ニ至リ七寸此量四後今二ヶ年ニ至テ一尺ニ此量百トナル此時ヲ最モ佳味ノ時トス田所調査

鰻魚

孚化后一年ニ至テ四寸此量三二年ニ至テ八寸此量八トナル之レヲ佳味ノ時トス普通多キハ一ヶ年ノモトス

兵庫縣

六頁

トス 須加町調
査ニヨル

刺

泥中ニ生産ス後一年ニシテ徑七分此量二年ニシテ徑一寸此量五分トナル 査ニ神ヨル調

鯖

浮化後三十日ヲ經過シ一寸トナル其年ノ大サ四五寸ニ至ル之レヲサバト云フ二年ニシテ六七寸此量目三年ニシテ一尺此量目ニ及フ普通多キ八九寸許ノモノトス 宮浦調査

鱈

浮化後其年ノ大サ一尺余此量九二トナル之レヲサバト云フ二年目ニシテ九二尺此量四トナル之レヲ柳鱈ト云フ三年ニシテ二尺五六寸此量九八ニ及フ

五月頃ノ佳味ノ時トス 普通多キハ其量九七八百目許ノモノトス 真浦調査

黄貝

泥中ニ生産シ後一ヶ年ニシテ徑一寸此量二年ニシテ徑一寸七分此量トナル 査ニ神ヨル調

雞魚

浮化後一年ニシテ四寸此量十二年ニシテ六寸此量三年ニシテ八寸此量五トナル二年三年ノモノヲ佳味アル時トス 普通多キハ一ヶ年ノモノトス 田所調査

繪残魚

浮化後一ヶ年ニシテ四寸此量十二ヶ年ニシテ六寸此量三トナル之レヲ最モ佳味ノ時トス 而シテ普通多キハ一年ノモノトス

工内

泥中ニ生産ス後一ヶ年ニシテ徑二寸五寸此量ニヶ年ニシテ徑二寸五寸此量トナル天神町調

鯨

浮化生長后其年ノ大カニ寸許リ此量凡ニヶ年ニシテ四寸許此量凡ニヶ年ニシテ七八寸此量凡トナル二月頃佳味ノ片トス普通多キハ其量凡七八寸真浦調

目高鯨

浮化后百五十日ヲ經過シ五寸此量凡一ヶ年ニシテ七八寸此量凡百トナル之ヲ最モ佳味ノ時トス普通多キハ凡五寸許ノモノトス妻麻村調

白貝

泥中ニ生産シ后一ヶ年ニシテ行後一寸此量ニヶ年ニシテ

鰯

他方ヨリ来ル所ノ魚ニシテ生産ノ景况詳カトラス故ニ大小亦同一トサレモ凡一尺乃至一尺五寸ノモノトス時トシテハ三尺以上ノモノアリ宮浦調査ニヨ

乙烏賊

浮化後廿日ヲ經過シ一寸トナル其年ノ大カニ五寸ヨリ八寸ニ至ル

鱸

浮化後一ヶ年ヲ經過シ五寸此量凡トナル之ヲ四寸ト云フ翌年ニ至リ一尺此量凡トナル之ヲ八寸ト云フ三年ニシテ一尺二三寸此量凡トナル之ヲ中鱸ト云フ四年ニシテ一尺七八寸此量凡トナル是レ即

系

口黑細	若	海	ツボ	鱒	ウバ	章	鯛	野	鰈	大	海	鰻
				自四月 至十月								
				自四月 至十月			六月	自七月 至十月	自三月 至十月			
				自八月 至十月	周年		自五月 至七月	九月			自六月 至十月	自七月 至十月
							六月					十月
							自五月 至七月				自五月 至七月	
							五月					
六月	自四月 至十月		周年	自七月 至十月			自四月 至十月		自二月 至五月	周年	自四月 至七月	
	四月		四月	九月			四月		四月	三月	五月	
				自十二月 至翌年 三月			自四月 至十月		自八月 至十月			
				一月			五月		九月			
				自十一月 至翌年 四月			自五月 至七月					
				一月			六月					

雜	鮎	鮠	了	鱒	海	手	蝦	小	鱒	鋪	真	竹
喉		魚	子		鏡	長					章	煙
									自四月 至十月			
									自四月 至十月			
自三月 至十月				自七月 至十月	自三月 至十月	自三月 至十月	自八月 至十月		自四月 至十月			
				九月	五月	四月	九月		五月			
					周年	自八月 至翌年 五月	周年	自七月 至十月	自七月 至十月		自六月 至九月	
					四月	四月	七月		十月			
自四月 至十月							自四月 至十月		自七月 至十月			
十月							十月		十月			
自三月 至十月	自四月 至十月	自二月 至五月	自七月 至十月		自一月 至三月		自四月 至十月		自五月 至七月	自四月 至十月	自九月 至十月	自四月 至七月
	四月	四月	十月				五月		六月	五月	十月	四月
自八月 至翌年 三月				自五月 至十月	自八月 至翌年 三月				自五月 至七月			
十月				九月	七月				十一月			
自十月 至翌年 八月				自六月 至十月							六月	七月

兵 庫 興

鱸	小鱸	鰯	白貝	唯海苔	目高鰓	鮓	エウ	繪殘魚	雜魚	黃貝	鰯	鰯	
					自四月 至五月 春秋			自三月 至五月					
		周年			自四月 至五月 三月				四月 五月				
											六月		
						一月 二月							
					四月 五月 自四月 至八月 五月					自四月 至五月 自五月 至八月 六月			
								自三月 至五月 三月 一月				自五月 至七月 五月	自五月 至七月 五月
													自五月 至七月 六月

第二項 氣象

鱸魚漁期中南風吹ク片ハ該魚多ク近岸ニ寄ル本場村調
以下 ○氣候順トシテ昼ハ南風夜ハ北風ヲ送ル片ハ海岸
 ノ潮水澄ミ魚群集ス ○春秋ニ當リ淡路及小豆島ニ雲掛
 ル片ハ南風吹き沖合波荒ク而シテ雨加ハル之レチヤマ
 風ト云フ ○夏土用ノ候風入レ雲行キ波立甚ニキチ之ヲ
 沖氣ト稱シ氣候順ナルノ兆ナリ ○微風吹き天氣晴朗ナ
 リト云モ海面濁リ白ク波チ起シ見ルモ凄ニキ有様トナ
 ルチヤリ是レ氣候ノ変化ニシテ一般ニ注意スルモノト
 ス ○十一月西風吹キタル片ハ鰯群集ス白濱村調査ニ
 黒雲起リ東ヨリ西ハ疾走シ又東風変シテ辰巳ヨリ未申

轉スル片ハ寂モ猛烈トナリ往々人家樹木ヲ倒レ或ハ
 船舶ヲ損スル等ノ大害ヲ与フルナリ○夏日好天氣ト
 蚤モ昼夜南風ノ吹ク之レヲキゲト云フ春ハヤマセ
 ト云フ此時ハ春ハ暴雨夏ハ暴風ノ前兆ニシテ漁者休漁
 ス妻鹿村調査ニ○小豆島ニ黒雲起リ東北風烈ニク吹キ
 淡路島へ薄雲繋リタル片之レヲ北ゴト云フ後辰巳ニ
 轉シ激烈トナル其景况白濱村ニ同シ○讃岐地方ニ黒雲
 起リ丑寅ノ方ヨリ風吹ク片ハ雨ヲ起スノ兆ナリ宮所調
全以下○日出テ前ニ雲燒ケ甚ニキ時ハ暴風ノ兆トス○
 夙キ日和ト唱へ朝北風昼西南風吹ク片ハ貝類ハ沙泥中
 ヲリ出ルヲ以テ捕獲多シ天神所調○鰯漁ハ漁期四月ニ
 南風ノ吹クヲ良トス故ニ南風強ニト蚤モ之レヲ嫌忌ス
 ルナリ宮浦調査ニヨル○鯖鱈漁ハ漁期

五月ニ当リ微風ニシテ海面平穏ナル片ハ一時ニ浮ニ出
 テ数万各所ニ群集ス而シテ風アルモ俗ニ「チビ」ト云フ風ノ
 如キハ聊カ害トナルナリ又ヤマセト称スル風ノ烈ニ
 ク吹キ怒濤岸石ヲ碎クカ如クナル片ハ固ヨリ害アリ然
 レモ平穏ニ復スル片ハ潮水濁リヲ生シ却テ捕獲多シ只
 タ春夏ノ候ニ西風或ハ北風多ク吹ク片ハ漁者ノ最モ患
 フル所ナリ○鰯漁ハ漁期六月ニ当リ南西ノ微風吹ク片
 或ハ時々降雨アリテ風ナキヲ最良トス終日晴天ナリ續ク
 片ハ宜ララス○鰯漁ハ漁期八月ニ当リ天曇リ風ナキヲ
 良トス鰯魚ハ好ニテ水面ヲ游泳スルヲ以テ何風ニ拘ラ
 ス数日間吹ク片ハ忽チ去リテ捕獲スルニ由ナシ○鰯漁
 ハ漁期四月南風ヲキヤアルヲ良トス適宜此風ノアル片
 ハ魚群集ニ殊ニ海岸ニ近寄ルモノ如シ○鰯漁ハ漁期

二 当り夜中風十キ片ヲ良トス ○海鰻鰹漁ハ 漁期八月
 三 當り風十キ片ヲ良トス ○鰹漁ハ 漁期五月ニ 當り南風
 微吹、片ヲ良トス ○鰹漁ハ 漁期四月ニ 當り南風微吹ス
 九月良トス 此風数日間吹ク片ハ 海底濁リ 魚未集ス 然レ
 氏時トレテハ 坤ノ方ニ 雷雲ヲ起ス片ハ 一時海水澄清ト
 忽チ散乱ニテ 捕獲ニ由チキニ至ル下アリ ○鯨ハ 漁期五
 月ニ 當り西風数日間吹ク片ハ 海水澄ニ 魚近寄ル下ナレ
 故ニ 沖合ニ 数千ノ 魚集ルモ 捕獲ニ 苦シム ○鯨章魚ハ 漁
 期ニ 當り晴天ヲ 續ク片ハ 海岸ニ 近寄ル下多シ ○鯨魚漁
 ハ 漁期十二月ニ 當り西風吹ク片ハ 良トス 適宜此風ノ下レ
 片ハ 魚暗礁ニ 群集ス 然レ 氏南北風烈レク 吹ク片ハ 岩窟
 中ニ 逃ケ入りテ 出ル下ナレ ○淡路地方ニ 黒雲起リ 其走
 ル下 甚ク速ク 且 東風吹キ 後チ 變レテ 辰巳ヨリ 未申ニ 轉
 スル片ハ 之レチ 功セカト云ヒ 寂モ 烈レキ 風トナル 其景况
 ハ 白濱村ニ 同シ

第三項

群来ノ前兆

鰹ノ 群集セシトスル片ハ 鳴等沖合ニ 群飛スル下アリ 濱白
 村調査 ○鰹魚群来セシトスル片ハ マ午 魚ノ 高ク海面
 二 浮フヲ 見ル 妻麻村調査 ○三四月 頃南風 吹ク
 片ハ 南海ヨリ 内海ニ 諸魚群来スルノ 徴ナリ 官所調査 ○
 鯛魚群来セシトスル片ハ 節分ヨリ 六十三夜目ノ 頃手長
 章魚 悉ク 深海ヨリ 出テ 海岸ノ 浅所ノ 藻際ニ 游泳ス 蓋シ 鯛
 魚ハ 章魚ヲ 嗜食スルモノニシテ 之レヲ 食ハニ 為テ 深海
 ニ 来ルヲ 章魚之レヲ 恐レテ 其難ク 藻際ニ 避クルモノナ
 ラニ 眞浦調査 ○鯨魚群来セシトスル片ハ 節分ヨリ
 八十八夜ノ 頃 其通過セル 海面ニ 淡褐色ヲ 現ハス下云フ

第四項

云来、期節及方向

魚、種類及季候ニ因リ異同アリト云モ概テ未期ニ於テ
 鯛、鱈、四月小鱈、八月鱈、五月鯨、九月ト去
 期ニ於テハ、鯛、六月鯨、十月小鱈、十二月鱈、八
 月鱈、十二月ト去、白濱村調 ○ 鯛、概テ四月ニ生産シ
 十二月ニ去リ小豆島地方ニ獲ル 阿成村調 ○ 鯛、西海ニ
 生育シ東行シテ阿波ノ鳴戸ニ至リ夫ヨリ四泳シテ遠ニ
 西海ニ歸ル 妻鹿村調 ○ 去来ノ方向ハ諸魚概テ南海ニ生
 育シ北行シテ鳴戸海ヲ經漸次進ニテ播海ニ入ル然レモ
 未タ其歸路ヲ審ニセズ 家島宮浦調

第三款

漁場

水場村

區域 鱈漁場ハ本村ノ沖合即チ水庭山ノ鼻八家港ヲ
 距ル南十丁ノ所トス

潮流 常ニ東西ニ往來シ四季トモニ緩ナリ
 水底ノ概状 海岸ニ接近セシ所ハ深サ二三尋沖手ハ
 六七尋ニシテ其底ハ大砂利トス

白濱村

區域 鱈、小鯨、鯨漁場ハ東加古郡別府村ヨリ西、揖東郡
 網千ニ至ル此里程凡ハ里陸ヲ距ル四丁乃至七八丁
 ノ間ニ於テス ○ 鱈漁場ハ本村ノ陸ヲ距ル八丁許ノ
 沖合ニシテ深サ六尋許リノ沖合トス但夏季ノ候ニ
 ハ一里許ノ沖合ニ装置スルアリ ○ 鯛漁場ハ本村

ノ南陸ヲ距ル凡六七里ノ沖合ニ於テス○蝦漁場ハ本村ヨリ東高砂ノ沖合ニ至ル凡三里而テ陸ヲ距ル凡五六丁ノ沖合ニ於テス○小鱧ハ地方ヲ距ル五六丁乃至一里許ノ間ニ於テス○手長章魚目高鯨蝦其他雜魚類ノ漁場ハ本村ヨリ東西凡五里陸ヲ距ル五六丁乃至四里半ノ沖合ニ於テス

潮流 木場村ニ全シ

水底ノ概狀 海岸ニ接近セシ所ハ寄洲ニテ砂利ナリ六七丁許リ沖合ハ深カ凡六尋其底ハ泥土ニシテ青藻ヲ生ス其長數尺幅凡二分アリ陸ニ沿フテ東西凡八九里間ニ連生ス凡九月頃ニ生シテ翌年五六月ノ頃ニ至リ繁茂ス夏土用中荒浪ノ時魚族孳化后ハ概テ此処ニ栖息スト云フ故ニ地引經澳ハ此処ヲ漁場トス又本村ヨリ辰巳ノ方二里ノ沖合ニ沖ノ瀨ト云フ処アリ深サ凡三十尋又其沖二里許ヲ進マハ打ゴリノ瀨ト云フ所アリ四五月ノ頃手操經ノ漁場トス

妻鹿村

區域 鑄澳漁場ハ飾磨港ヲ距ル三四丁ニシテ西南ノ方位ニアリ○鰯魚漁場ハ本村ノ地先七八丁ノ沖合ニシテ藻合ト唱フル所ニアリ○鱧澳及鮫漁場ハ本

村ノ沖合ニ里則チ飾磨港ノ東南八家地蔵ノ正南ニシテ陸ヲ距ル一凡二十丁ノ所トス○手長章魚比目魚海鰻鱧蝦ノ各漁場ハ本村沖手ヨリ高砂沖合ニ至ル里程三里餘陸ヲ距ル一里乃至三里ニシテ飾磨港ヨリ東南ノ方位ニアリ○鰯魚漁場ハ揖西郡室津沖合即チ家島ノシゲ沖合ヨリ加古郡ニ見沖字アリ

下中島村
 魚澳場ハ家島シ海ニテ本村ヨリ五里西南ノ方位ニ
 アリ但該場ハ年々衰更ニテ定マラス
 潮流 常ニ東西ニ往來ニ春ハ急ナレトモ冬ハ緩ナリ
 但ニ八月頃満潮ノ時ハ特ニ急ナリ之レヲ盆潮訪ト
 云フ

水底ノ概狀 海岸ニ接近セシ所ハ深サ三尋ヨリ六尋
 ニ至テ此処ヲ地瀉ト云フ其底ハ小砂利ナリ九月頃
 鰯魚、鱈魚群來ス次ヲ生藻ト云フ陸ヲ陸ル此処ハ深
 サ六尋ヨリ八尋ニ至ル其底ハ生藻繁茂ニ常ニ魚族
 ノ産卵及ヒ群居スル処トス次ヲ沖手ト云フ陸ヲ陸ル
 深サ十尋ヨリ十五尋ナリ其底ハ小砂利或ハ粘土
 ナリ

阿成村

區域 鰯魚、鱈魚、鰹魚、鰯魚、海鯽、雜唯漁場ハ東加古郡高砂
 西、揖西郡苧屋村ニテ凡六里而テ地方ヲ距ル凡八丁
 内外ニ至テ打リスト云フ生藻ノナル所トス○鰯、鱈
 漁場ハ同前ノ沖合ニ三里許リノ所ニ於テス
 潮流 妻鹿村ニ全シ
 水底ノ概狀 海岸ニ接近セシ所ハ深サ凡二尋ナリ進
 ムト七八丁ニ至テ深サ三尋ナリ此処ヲ打リスト云
 フ其底ハ小砂利トス鰯魚其他ノ魚類常ニ群集ス是
 ヨリ沖合ニ三里許リノ処ハ泥底ニ至テ深サ凡十尋
 鰯、鱈ノ類未集ス

下中島村

區域 鰯魚澳場ハ本村地先ヨリ午未ノ方五六丁乃至

系

十丁、所トス○蛤其他貝類捕漁場、本村地先キマ
 リ午未、方三四丁許リ、所ニアリ○雌海苔採取場
 ハ印南郡荒井村加古郡別府村高砂飾東郡飾磨津揖
 東郡網干、海岸ナリ

潮流 常ニ東西ニ往來ス平常ハ緩ナレモ三月九月ハ
 急ナリ又満潮ノトキハ辰巳、方ヨリ来リ干潮ノキ
 ハ之レニ及ス

水底ノ概状 海岸ニ接近セシ所ハ遠淺ニシテ干潮ノ
 中ハ歩行スルヲ得此所ニハ四五月又十一月ノ頃
 蛤其他ノ貝類ヲ生ス又海岸ヲ距ル五六丁ニ至レハ
 深サ五尋ナリ此処ヲナレト云フ其底ハ黑泥ナ
 リ

飾磨津宮町

區域 鯨、海鯽、鮠、魚釣漁場、本郡家島諸島ノ磯邊トス

○海鯽、鯨釣漁場、東加古郡古宮村前ヨリ西揖西郡
 室津迄九十一里陸ヲ距ル九一里以内ノ間トス○鰯
 魚之網、投網、鮠流ニ網、等ノ漁場、東西ノ間同前ニシ
 テ陸ヲ距ル九十五丁以内生藻ノ邊トス○鱧、鯛、鮪、鱈
 鮫、口黒鯛等ノ釣漁場、東西ノ間同前ニシテ、乾中水
 津海岸接近ノ所ヲ良トス

潮流 妻鹿村ニ全シ

水底ノ概状 海岸ニ接近セシ所ハ深サ四尋ナリ其底
 ハ粘泥海底全以下ニシテ藻ヲ生ス是ヨリ南ニ進ミ二
 十丁、処ハ深サ六尋ニシテ黑山出ニ又是ヨリ二十
 丁、処ハ深サ七尋半ニシテ龍山出ニ是ヨリ二十五
 丁、処ハ深サ九尋ニシテ宮當リ是ヨリ十五丁ノ所

ハ深サ十二尋ニテ岩屋合ト是ヨリ二十五丁ノ所
ハ家島ノ内鞍掛島邊ニテ深サ十八尋アリ是ヨリ
一里ノ所ハ深サ二十尋ニテ高島出ト是ヨリ二里
ノ処ハ深サ二十二尋ニテ平根出ト是ヨリ一里ノ
所ハ深サ二十二尋ニテツブラ喰是ヨリ四里ノ所
ハ深サ二十五尋ニテ白濱出ト云フ

飾磨津大町

區域 各種漁場宮町ニ全シ

潮流 妻麻村ニ全シ

水底ノ概状 宮町ニ全シ

飾磨津天神町

區域 採貝場東荒井村前ヨリ西、蘇屋村迄凡六里陸
ヲ去ル凡五丁以内トス

潮流 妻麻村ニ同シ

水底ノ概状 宮町ニ同シ

飾磨津須加町

區域 小難喉手操網漁場ハ一般入會ニテ東加古郡
荒井村ヨリ西、揖西郡室津迄至ル凡八里陸ヲ距ル凡
十五丁以内ニテ生藻セル邊トス其他漁場ハ總テ
宮町ニ全シ

潮流 妻麻村ニ同シ

水底ノ概状 宮町ニ同シ

飾磨津田町

區域 鰯魚立網、投網、流網漁場ハ總テ宮町ニ全シ
○鰯魚、沙魚等ノ釣漁場ハ東、本郡妻麻村前ヨリ西、揖西郡
苏屋村前迄凡四里陸ヲ去ル十丁以内トス
○鰯魚、沙

打投網漁場ハ、唐川思業橋川内及干潮ツマリ飾磨
津前海岸十丁以内ノ洲間トス

潮流 妻鹿村ニ全シ

水底ノ概状 宮町ニ全シ

飾磨津上英加町

区域 鰯魚之網及投網等ノ漁場ハ、終テ宮町ニ全シ

潮流 妻鹿村ニ全シ

水底ノ概状 宮町ニ全シ

飾磨津御幸町

区域 投網漁場田町ニ全シ

潮流 妻鹿村ニ全シ

水底ノ概状 宮町ニ全シ

家島宮浦 全防勢浦

区域 鯛敲網漁場ハ、本島ノ南即チ陸ヲ距ル己午ノ方

五里ノ所ニアリ但シ當初ハ字白濱ノ夕チ当リト唱

フル所ニテ元三四里四方ノ間ニマリシカ文政初年

ノ頃ヨリ漸ク衰テ此処ニ遷レリト云フ○地漕網漁

場ハ往古ヨリ本島沖ニ三里ノ所ヨリ海岸ニ漕舟ケ

漁ス○縛網籍漁場ハ本島ノ南陸ヲ距ル五里ノ所ヨ

リ東西三四里及南ハ五六里ノ間トス元ト伊豫ヨリ

備後鞆津ノ沖合ナリシモ近年ニ至リ斯ク衰遷セシ

ト云フ○流瀨網籍經、經、經ノ漁場ハ本島ノ南即チ陸

ヲ距ル五里字白濱ノ夕チ当リヨリ東西三四里ノ間

トス○鵜網漁場ハ本島ノ海岸ニシテ陸ヲ去ル凡一

丁ノ処及諸属島ノ海岸トス又他方出漁ノ片ハ高砂

沖合ヨリ赤穂沖合ノ間ニ於テスルノ慣行ナリ○大

為持及雜喉為持、澳場、本島、南即、陸、距、五
 六里、所、之、風勢、從、東西、或、南北、凡、八九里
 以內、才、走、セ、又、雜喉、為、持、澳、播磨灘、海岸、距、
 一里、余、所、於、澳、業、○、鯨網、澳、場、八家村、沖、合
 二、同、村、距、四、丁、所、於、
 澳、場、本、島、南、北、海、岸、即、陸、距、半、丁、余、所、
 五里、乃、至、七八里、東、南、或、北、間、漸、次、配、置、
 所、ト、ス、○、釣、業、及、海、鰻、鱈、拼、繩、兩、澳、場、島、間、暗、礁、
 所、在、即、千、男、鹿、島、一、島、東、南、東、方、海、岸、距、
 三、丁、小、破、磯、深、又、其、東、南、海、岸、距、二十、丁、大、
 破、磯、ト、称、ス、ル、何、レ、モ、大、石、凸、凹、々、暗、礁、及、宇、和、島、
 一、里、距、東、北、方、ト、本、島、ト、間、連、亘、セ、ル、暗、礁、
 船、頭、ト、太、島、本、島、距、東、西、方、海、岸、距、二、丁、笠

磯ト称スル暗礁、掛島、本島、東、三、里、近、傍、暗、礁、上、
 島、本、島、東、五、里、東、南、及、北、ア、ル、暗、礁、本、島、西、北、一、里、
 半、所、ア、ル、暗、礁、
 ア、里、坊、勢、島、本、島、西、一、里、隱、島、本、島、西、三、里、
 ア、西、三、里、高、場、島、全、小、島、共、三、里、本、島、西、小、松、島、
 一、里、三、里、矢、島、本、島、西、南、一、里、黑、島、本、島、南、一、里、
 一、里、西、南、一、里、高、島、南、矢、島、共、二、里、本、島、西、三、里、
 一、里、南、三、里、松、島、本、島、南、三、里、各、海、岸、
 一、里、鳴、島、南、二、里、西、北、二、里、暗、礁、大、津、浦、島、及、小、津、浦、
 一、里、本、島、西、二、里、西、方、二、丁、餘、
 一、里、東、南、ア、ル、暗、礁、加、島、本、島、西、南、東、
 一、里、暗、礁、二、丁、一、ツ、破、磯、ト、称、一、丁、カ、
 一、里、暗、礁、二、丁、一、ツ、破、磯、ト、称、一、丁、カ、
 一、里、其、週、回、二、丁、ア、リ、又、加、島、西、路、島

兵 庫 島

山ノ嶽スル暗礁岩窟ナリトス

潮流 潮流ハ常ニ東西ニ往來シ春ハ干潮ノ時急ニ

テ冬ハ満潮ノ時急ナリ又八月ハ盃潮ト稱シ満潮ノ

時最急ナリ

水底ノ概狀 本島港内ハ深サ凡七尋ニシテ港口ハ深

サ凡拾五尋アリ海一岸ヨ○本島ヨリ南沖合ハ深サ二

十尋此処ヲ字「白濱」タカ當リト云フ其東西ハ深淺

定ラス水底ハ小砂利ニシテ鱧魚多ク棲息ス○男鹿

島ニ接近スル所ハ深サ二十尋ニシテ此所ヲ小碓磯

ト云フ海三岸ト距離ル又其東南ニ至レハ十尋ヨリ廿二

尋ノ深サニシテ此所ヲ大碓磯ト云フ海二岸ト距離○宇

和島海岸ニ接近スル所ハ深サ十三尋ニシテ此所ニ

暗礁アリ之ヲ船頭ト云フ周回凡一丁余礁外ノ深

サ凡廿三尋アリ海一岸ト距離○本島海岸ニ接近スル所

ハ深サ十二尋ニシテ此所ニ暗礁アリ之ヲ笠磯ト

云フ周回凡三丁礁外ノ深サ廿二尋海二岸ト距離アリ又

其東北ノ所ハ深サ七尋ニシテ暗礁アリ之ヲ釣磯

ト云フ海四岸ト距離周回凡二丁ニシテ南北ニ長シ○鞆

掛島海岸ハ深サ二十二尋海一岸ト距離○上島ノ南ニ接

近スル所ハ深サ廿尋此所ニ暗礁アリ之ヲナゴ

ト云フ之ヨリ進マハ深サ三十尋海半岸ト距離アリ又西

南ニ接スル所ハ深サ八尋ニシテ暗礁アリ海四岸ト距離

之ヲ地ノ石又孫兵衛ト云フ○本島ノ西一里半ニ

シテシヅモト稱スル暗礁アリ干潮ノ時深サ三尺ノ

所ヲ檣石ト云フ其他ハ概テ深サ三尋トス周回凡廿

丁ニシテ其底ハ一般ニ大石凸凹ニ海藻叢生ス其色

赤色ナリ○西ノ島ノ海岸ニ接近スル所ハ深サ十八尋海岸ヲ距ル凡拾五間ノ所ニ小島アリ之レヲ北ノ矢ゲト云フ○坊勢島海岸一丁余ヲ距ル所ハ終テ廿尋ナレトモ西隅ニ至レハ西ノ島ト距離僅カニ二間ニシテ干潮ノ片ニハ深サ一尺ニ過キス故ニ諸船通航スル能ハス此所ヲ瀨ノ内ト云フ○黒番島ノ海岸ニ接近スル所ハ深サ十五尋暗礁アリ○高場島及金小島小松島ノ三島ニ接近スル所ノ海底ハ終テ廿三尋ナリ○矢ノ島ニ接近スル所ハ深サ二尋ニシテ暗礁連亘ス此所ヲチ、ニチト云フ水底ハ大石重疊セリ五六月頃ニ鱸魚群来スル海○黒島海岸ニ接近スル所ハ深サ廿尋ニシテ暗礁アリ之レヲチニゴケト云フ○高島ノ海岸ニ接近スル所ハ深サ

二三尺此所ヲ瀨ト云フ其西南隅深サ三十三尋此所ヲチマブノ鼻ト云フル海一岸丁ヲ距○南矢ケ島及葛島大津浦島小津浦島ノ四島ニ接近スル所ハ深サ概テ二十五尋ナリ○長島及三ツ頭ノ二島ニ接近スル海底ハ砂利ニシテ其深サ凡廿尋トス○松島海岸ニ接近スル處ハ深サ三尋ナリ此所ニ暗礁アリ之レヲチキツノト云フ其礁外ハ廿五尋ル海一岸丁ヲ距アリ又西南ニ接近スル所ハ深サ廿五尋ニシテ此所ニ暗礁アリ之レヲチマタレト云フル海一岸丁ヲ距其東ニ接近スル所ノ暗礁ハチチガレト云フ干潮ニ至レハ水面ニ現出スル海一岸丁ヲ距○加島海岸ニ接近シ成変ニ當リ深サ四十尋ノ所アリ之レヲチカセト云フル海一岸丁ヲ距又東北ニ接近スル所ハ深サ廿二尋此所ニチゴシマカレト云フ暗礁アリ

海
深
岸

アリテ南北ニシテ周回二丁深サ七尋アリ其礁外
ハ廿三尋アリテ水底ハ大砂ナリ○隠下島ハ本島ノ
西三里ニアリ談島ニ續キテ暗礁アリ深サ九八尋○
小松島ハ本港ヲ去ル一三里トス談島ノ東九三丁ノ
処ニ磯アリ大字西ノ島ト云フ○着島ハ本港ノ南二
里余ニアリ談島ノ東北及西方ニ暗礁アリ○大津浦
島小津浦島ハ本港ノ南ニ里半ノ所ニアリ談島ノ西
二丁余ノ処ニ暗礁アリ礁ノ高サ四十二三尋アリ礁
外深サ九廿五間アリ其底ハ小砂利ナリ○長島ハ本
港ノ南三里ニアリ談島ノ東南ヲ距ル三丁ニテテ
キト糸スル暗礁アリ高サ三尋礁外深サ廿四尋又此
東四丁ヲ距リ暗礁アリ之レヲ加島出ニト云フ高七
尋ニテテ礁外深サ廿四尋アリ○以上ノ外ハ宮浦ニ

同シ

第四款 入會漁船、數

白濱村

一 鯛漁場

漁船總數

二百四十艘

但一人一艘 明治十九年

內

揖東郡網干地方、漁船

三艘

加古郡高砂地方、漁船

五艘

同郡古宮村本庄村地方、漁船

廿五艘

本郡家島地方、漁船

百艘

同 妻麻村漁船

百艘

本村漁船

七艘

一手操網漁場

漁船總數

二百三十五艘

但一人一艘 明治十九年

内

揖東郡網干地方、漁船

十艘

加古郡二見村漁船

三十艘

同郡古宮村漁船

三十艘

同郡本莊村漁船

十五艘

同郡高砂町漁船

三十艘

印南郡福泊村漁船

五艘

本郡飾磨津地方、漁船

七艘

同 妻麻村漁船

百艘

本村漁船

八艘

當漁場、明治十年、頃々、漁船三百艘許あり

之、力減少、遂々本文、數十あり

一 地曳網漁場

漁船総数

拾一艘 但一艘三人乗

明治十九年八月調

内

揖西郡岩見村漁船

四艘

同郡室津地方、漁船

一艘

加古郡高砂地方、漁船

一艘

本郡家島地方、漁船

四艘

本村漁船

一艘

妻麻村

一 躰漁場

漁船総数

五艘 但一艘一人乗

明治十九年六月調

内

本郡飾磨津地方、漁船

三艘

本村漁船

二艘

一 鯨漁場

漁船總數 四拾五艘 二但一人一乘艘 明治十九年六月調

内

本郡阿成村漁船 拾艘

本村漁船 三拾五艘

一 鱸、鮫、手長、章魚、比目魚、海鰻、鱈、海老等漁場

漁船總數 百廿五艘 三但一人一乘艘 明治十九年六月調

内

加古郡高砂地方、漁船 三拾艘

本郡白濱村漁船 五艘

同 飾磨津地方、漁船 二拾艘

本村漁船 七拾艘

一 鯧漁場

漁船總數 二百十艘 三但一人一乘艘 明治十九年六月調

内

揖東郡網干地方、漁船 拾五艘

加古郡二見村漁船 三拾艘

同郡別府村漁船 三拾艘

同郡高砂地方、漁船 五拾艘

本郡白濱村漁船 五艘

同 飾磨津地方、漁船 二拾艘

同 家島地方、漁船 四拾艘

本村漁船 二拾艘

一 烏賊漁場

漁船總數 百七拾艘 三但一人一乘艘 明治十九年六月調

内

飾磨津宮町

一 鱧、鮪、鱈、鰻、鮫、口黒、鯛等延縄釣漁場

漁船総数

二百六十五艘 但一艘三人乗

明治十九年六月調

内

泉州堺地方、漁船

二拾艘

兵庫地方、漁船

拾五艘

明石郡明石地方、漁船

拾艘

加古郡高砂町漁船

五拾五艘

揖東郡新在家村興濱村地方、漁船

拾艘

本郡家島地方、漁船

五拾艘

同 阿成村 妻麻村漁船

五拾艘

同 白濱村漁船

二拾艘

同 飾磨津地方、漁船

三拾五艘

當漁場、天文元年頃、百三十九艘、十リ、ニ、カ、尔、未

増加ニ、遂ニ、本文、数、十、七、リ

一 鰯、鮪、鮪、特引漁場

漁船総数

七艘 但一艘二人乗

明治十九年六月調

内

本郡飾磨津須加町漁船

二艘

同 御幸町漁船

一艘

同 上英加町漁船

一艘

家島宮浦

同 田町漁船
本町漁船

一艘
二艘

一 鯛鼓網漁場

漁船総数

百八十五艘
但一人乗

明治十九年
六月調

内

赤穂郡相生村漁船

三拾艘

揖東郡網干地方、漁船

二拾艘

本郡妻鹿村漁船

三拾艘

同 飾磨津地方、漁船

二拾艘

同 家島真浦漁船

三拾五艘

本浦漁船

五拾艘

當漁場、明治五年頃より本島、漁船、云々

テ僅口ニ八十艘位ナリニシテ近年他方、漁者入漁

スル者年々増加ニ遂ニ本文、数トナレリ

一 縛網漁場

漁船総数

三拾九艘
但一人乗
明治十九年
六月調

内

周防地方、漁船

六艘

伊豫地方、漁船

二艘

廣島地方、漁船

七艘

備後地方、漁船

六艘

備中地方、漁船

四艘

赤穂郡坂越村漁船

二艘

同郡相生村漁船

三艘

揖西郡室津地方、漁船

二艘

同郡岩見村漁船

二艘

本郡家島真浦漁船

二艘

本浦漁船

三艘

當漁場、從前、本島漁船、三十リ、近年他方

、漁船入漁スルモ、年々増加ニ遂ニ本文ノ数ト

ナレリ

一流ト網漁場

漁船總數

九拾一艘 三但人一乘艘

明治十九年六月調

内

備前国日生浦地方、漁船 九十艘

本浦漁船

一艘

當漁場、從前本浦、漁船、三十リ、近年他

方、未漁スルモ、年々増加ニ遂ニ本文ノ数トナ

レリ

一 網漁場

漁船總數

三拾九艘 一但人一乘艘

明治十九年六月調

内

赤穂郡坂越村漁船

二艘

同郡相生村漁船

六艘

揖西郡岩見村漁船

五艘

同郡室津地方、漁船

拾艘

揖東郡網干地方、漁船

二艘

本郡家島真浦漁船

四艘

本浦漁船

拾艘

當漁場、文久三年頃ニテ、本島、漁船、三十リ

ニカ明治十二年頃ヨリ他方、漁者漫リニ未漁ニ

年、増加ニ遂ニ本文ノ数トナレリ

一 雜魚為持網漁場

漁船総数

三百七十九艘二但一人乗

明治十九年

内

備前國日生浦地方ノ漁船 百五拾艘

赤穂郡相生村漁船 六拾艘

揖西郡岩見村漁船 二拾艘

揖東郡網干地方ノ漁船 八艘

本郡家島防勢浦漁船 二拾艘

同 家島真浦漁船 八拾五艘

本浦漁船 三拾六艘

當漁場ハ明治初年頃ニテハ本島ノ漁船百艘ノ多

数ナリニカ明治十五年ノ頃ヨリ漸次減少ニ及テ

一 大為持網漁場

漁船総数

四拾一艘但一人乗

明治十九年

内

本郡家島防勢浦漁船 三拾一艘

同 家島真浦漁船 二艘

本浦漁船 八艘

當漁場ハ天保八年頃ニテハ僅カニ拾七艘許ナリ

ニカ年々増加ニ明治十年頃ニ至リ其数百五六十

艘ニ至レリ然ルニ同十七年頃ヨリ年々減少ニ遂

ニ本文ノ数トナレリ

一 繇網漁場

漁船総数

六艘二但一人乗

明治十九年

内

揖西郡岩見村漁船 一艘

本郡白濱村漁船 四艘

本浦漁船 一艘

一 海鏡鰻拵總漁場

漁船總數

二拾六艘

但一人乘一艘

明治十九年六月調

内

泉品博地方、漁船 五艘

兵庫地方、漁船 五艘

本郡飾磨津地方、漁船 二艘

本浦漁船 拾四艘

當漁場、從前、僅二拾四五艘、十リ、二日、尔後增加

二、遂ニ本文ノ數トナシリ

一 鱧拵總漁場

漁船總數

百拾五艘

但一人乘一艘

明治十九年六月調

内

備前地方、漁船 二拾艘

兵庫地方、漁船 二拾艘

明石郡明石地方、漁船 五艘

本郡地方、漁船 三拾艘

本浦漁船 四拾艘

當漁場、文政七年、頃ニテ、本浦漁船、外他船、未漁セカリ、ニカ、維新後ニ至リ、他方、漁者、衰リ、入會ニ年、増加ニ、遂ニ本文ノ數トナシリ

一 釣漁場

漁船總數

九拾艘

但一人乘一艘

明治十九年六月調

内

揖西郡室津地方、漁船 二拾艘

揖東郡網干地方、漁船 拾艘

本浦漁船 六拾艘

當漁場、維新前、本浦、漁船、三十リニ、維新後ニ至リ、妄リニ他方ヨリ来集ニ年、増加ニ遂ニ本文ノ数トナシリ

家島真浦

一 鯛漁場

漁船総数 二百七十五艘 但一人乗 明治十九年

内

揖東郡網干地方、漁船 二拾艘

加古郡二見村漁船 二拾艘

同郡別府村漁船 三拾艘

同郡高砂地方、漁船 三拾艘

本郡白濱村漁船 五艘

同妻鹿村漁船 三拾艘

同飾磨津地方、漁船 三拾艘

同家島宮浦漁船 五拾艘

本浦漁船 六拾艘

一 鯖、鯖漁場

漁船総数 七十八艘 但一艘八人乗 明治十九年

外ニ添船 三百四十五艘 但一艘四人乗

内

周防地方、漁船 拾二艘

外ニ添船 六拾艘

伊豫地方、漁船 四艘

外 = 添船 二拾艘

廣島地方、漁船 拾四艘

外 = 添船 七拾艘

備後地方、漁船 拾二艘

外 = 添船 六拾艘

備中地方、漁船 八艘

外 = 添船 四拾艘

赤穂郡坂敷村漁船 四艘

外 = 添船 拾四艘

同郡相生村漁船 六艘

外 = 添船 二拾一艘

揖西郡岩見村漁船 四艘

外 = 添船 拾四艘

同郡室津地方、漁船 四艘

外 = 添船 拾四艘

本郡家島防勢浦漁船 六艘

外 = 添船 二拾四艘

本浦漁船 四艘

外 = 添船 八艘

籍籍、鯛漁場、明治十四年頃より、僅に漁船四十艘許りたり、同十五年頃より、増加に遂に本文、數十十レリ

一 鯛漁場

漁船総数 七拾四艘但一十艘七人 明治十九年

外 = 添船 百十一艘但一人乗

内

赤德郡坂越村漁船

四艘

外 = 添船

六艘

同郡相生村漁船

拾二艘

外 = 添船

拾八艘

揖西郡岩見村漁船

拾艘

外 = 添船

拾五艘

同郡室津地方、漁船

二拾艘

外 = 添船

三拾艘

本郡家島防宮壽浦漁船

二拾艘

外 = 添船

三拾艘

本浦漁船

八艘

外 = 添船

拾二艘

一 鱧、鯨、海鰻、鰻、鱈、雜魚、鰻其他諸魚漁場

漁船總數

五百六拾五艘但一艘二人乘 明治十九年
或八拾八艘三人乘 六月調

内

備前国日生浦地方、漁船 百四十艘

淡路西浦地方、漁船 百艘

赤德郡相生村漁船 四拾艘

揖西郡岩見村漁船 四拾艘

同郡室津地方、漁船 二拾艘

揖東郡網干地方、漁船 拾五艘

本郡家島宮浦漁船 七拾艘

同 家島防勢浦漁船 六拾艘

同 飾磨津地方、漁船 拾艘

本浦漁船 七拾艘

当漁場、明治十一年頃ニテハ、僅クニ漁船三百艘許ナリシモ同十二年、頃ヨリ年々増加ニ遂ニ本文ノ数トナレリ

一 海鼠漁場

漁船総数 四拾五艘 二但人一乘艘 六月明治十九年

内

備前地方、漁船 三拾艘

本郡家島官浦漁船 拾艘

本浦漁船 五艘

一 鯨漁場

漁船総数 六艘 二但人一乘艘 六月明治十九年

内

本郡家島防勢浦漁船 五艘

本浦漁船

一艘

一 章魚漁場

漁船総数 百三十五艘 二但人一乘艘 六月明治十九年

内

揖東郡網干地方、漁船 五艘

加古郡二見村漁船 三拾艘

同郡古宮村漁船 三拾艘

同郡高砂地方、漁船 拾艘

本郡家島防勢浦漁船 四拾艘

本浦漁船 二拾艘

第五款 漁具

第一項 漁網及釣具等

漁具現數左ノ如シ

但鑷拵總ノルモ具數詳ナラザルニヨリ略ス

漁具名	本場村	白濱村	妻原村	阿成村	下島村	解懸陣宮町	大町	天神町	須賀町	田町	真島街幸町	宮浦	防勢浦	真浦	合計
鰯曳網		一													一
烏賊釣															二〇
鰯魚鑷拵															四七
鰯魚走網					二〇										二〇
鰯魚建網			二〇〇	七二〇											九二〇
鰯魚鑷四															五
鰯拵總				五											三六
鰯拵總						一六									一六
鰯拵總						八									二
鰯拵總															五
鰯拵總															二
鰯拵總															三

六頁

兵庫縣

雜魚手網	鯨釣	鯨叩網	海鏡籠提繩	級漕網	鯨籠中高網	鯨釣	竹煙突	海龍掛	海鼠漕網	鯨籠呼網	章魚釣	章魚壺繩
數疊	數本	數疊	數桶	全	數疊	數本	全	數挺	全	數疊	全	數本
										二		
八				二	一					五		
七。										三		
			二	二。								
			五									
			一。									
			四				五。					
六			七							一		
			八									
一	二。		二。			三。		三。	二。	一。		
												六。
五		三。										二。
九。	二。	三。	三。	二	一	二。	五。	三。	二。	二。	二。	八。

鯛拼繩	鯛地漕網	鯛子網	鯨拼繩	鯨釣	鯨籠雜魚大為持網	大貝子孫籠	海鯨拼繩	海鯨鯨拼繩	鯨流網	沙魚釣	肩削	蛤ッボコ採	鯨拼繩
數桶	全	數疊	數桶	數本	數疊	數挺	全	數桶	數疊	數本	數挺	數挺	全
		七											
		六。											
三五								二					三五
												三	
三。								一					六。
六四								二					六八
													六八
								一					六。
四八								二					
八。	二	五。		六。	八								八。
	一				三								
		六。			二								
三六七	三	一七七	二九六	六。	四	一	二	二	五	二	一	一	二五七

系

魚

籠 釣 全	口 鳥 賊 釣 本 数	罾 網 数 本	軟 釣 本 数	軟 建 網 数 本	雜 魚 釣 本 数	簪 沅 網 全	簪 網 網 全	雜 魚 為 持 網 全
						四		
一二〇	一一〇	七	六〇			一	二	三六
							一	二九
							四	七〇
一二〇	一一〇	七	六〇	一	四二	一	七	一三五

漁船現數 第二項 漁船

種 別	一 間 漁 船
本陽村	
白濱村	一六
妻鹿村	三八
阿成村	
下島村	
餘慶宮	七
大町	一
天神町	
復町	二
田町	四
美草町	一
待幸町	一
泉島宮浦	一四三
防勢浦	一〇
真浦	
合計	二二三

二 間 漁 船	三 間 漁 船
二	
二	
一〇	
二	
一	
六	
二四	
三	
七	
四八	一八
四七	二九
一四三	六
三七四	五三

第六款 漁法

鵜漁

地曳網 津名郡 = 同

曳網 使用法 桑三原郡鵜掛曳網 = 同 但七月ヨリ

用ニルモノハ網船二艘手船三艘ニシテ鵜、逸去ヲ

防リ為テ海面ニ棒方言ツヲ頻リニ投ケ込ニ又十月

ヨリ用ニルモノハ漁網大ナルヲ以テ網船二艘手船

四艘乗組総計四十五人ニシテ網船内ツキ、マニ轆

轆ヲ据ヘ六尺許ノ棒六七本ヲ以テヨリヨリエ

掛ケ声ヲ出シテ網網ヲ捲キ以テ胴ノ間ニ繰リ込

ム繰リ終レハ各網船ヨリ二人宛竹竿ヲ以テ魚群ヲ

駈リ之ヲ曳揚ケ漁獲スルモノトス 家鳥真浦調

烏賊漁

釣 漁法ニ二アリ一ハ漁期十月ニ至シハ鰯魚ヲ釣ル

此時ニ該釣ニ掛リ上ケルモトス漁獲ノ種類ハ船頭烏賊ハリ烏賊トス一ハ同期中月色玲琅ノ夜蝦形ノ釣具ヲ取リ一人或ハ二人漁船ニ乗組ミテ漕出テ島嶼ノ周圍ヲ距ル凡四五間ノ所ニ垂レテ之ヲ釣ル漁獲ノ種類ハヒ烏賊トス家島宮浦調査ニヨル

鰯魚漁

打網 揖東郡ニ全シ

建網 夜陰漁船一艘ニ二人乗組海岸ヨリ凡六町迄ノ間ニ漕出シ十把乃至十二把ヲ繫キ合セ瀬筋ノ側ヲ

恰モ幕ノ如ク張ル之ヲ方言泻立ト云フ以テ該魚ノ通行ヲ遮キリ潮ツマリ終潮流ノ限リ一回艦ヲ叩テ魚ヲ網中ニ駈リ掛ラシムルモトス

町節磨津宮調査ニ

四艘張網 揖西郡ニ全シ

走り網 揖東郡ニ全シ

鰯漁

併繩 漁期九月ニシテ漁船一艘ニ三人乗組又狩引

船普通ヨリ小ナルハ二人乗組一船ニ二桶ヲ備ヘ出漁スルモトス節磨津宮町調査ニヨル

併繩 該漁ハ夜業ニシテ漁船一艘ニ三人乗組該具廿六桶ヲ備ヘ夜陰ニ乗リ漕出シ潮行ノ緩ナルヲ俟テ

鰯、章魚、烏賊ヲ餌料トシテ之ヲ配置シ凡一時間ヲ經過シ之ヲ繰リ揚ク但狩引船ヲ以テ漁スルモ

一一艘ニ二人乗組八桶ヲ備アルモノトス節磨津宮町調査ニ

併繩

併繩

併繩

併繩

併繩

併繩

併繩

併繩

併繩

併繩

給漢

肩削 飾西郡ニ同シ

沙魚漢

釣 海岸ニ沿ヒ漢船ヲ浮ヘ二人乗ニテ竿釣ス餌料ハ

小蝦ナリ 飾磨津ヨル町 調査ヨル

緇漢

四艘張網 揖西郡緇魚四艘張網ニ同シ

流セ網 加古郡ニ全シ

海鯽漢

拵繩 漢船一艘ニ二人乗組マナリ餌料トナシ

ナドリ様ニ海中ニ配置シ後暫クニテ繰上ケ捕獲ス

ルモノトス尚明石郡ヲ参照スヘシ 阿成村調査ヨル

大貝漢

大鉄 飾西郡ニ全シ但夜干潮ノ時炬火ヲ照ラシ設具

ヲ以テ洲上ヲ堀リ探ル下地中五寸乃至一尺二三寸

許リニシテ之レヲ捕獲ス 飾磨津天神町 調査ヨル

鯨漢

大為持網 設具ハ雜魚漁用ニシテ就中主トシテ漢獲

スルモノハ鯨船其次ヲ雜魚トス其漢期十一月ニ至

シハ大網船一艘ニ三人乗組設網一疊ヲ積載シ夜中

強風ノ時ヲ機トシテ大小三ヶノ帆ヲ揚ケ終夜漕キ

行キ以テ之レヲ捕フ之レヲ大為持ト云フ帆ノ装置

方ハ雜魚ノ夕セ網ニ全シ 家島宮浦調査ヨル

拵繩 漢期二月ヨリ五月ニシテ漢船一艘ニ三人乗組

ハ桶ヲ備ヘ出漢ス餌料ハツボコ貝ノ剥身ニシテ日

出ヲ待テ家島門ノ各島近傍ニ配置シ凡一時間經過
シテ之レヲ繰上ケ捕獲ス但狩引船ハ二人乗ニシテ
八桶ヲ備テ調査ニヨル

釣 漁季八月ニ至シハ小漁船一艘ニ二人乗組島嶼及
暗礁ノ各所ニ至リ潮上ニ止マリ其流ニ隨ヒ流レ
ワ、之レヲ釣リ捕テ餌ハ小鰯ヲ用ニ家島宮浦調
査ニヨル

鯛漁

ゴキ網 津名郡ニ同シ

地漕網 津名郡鯛漕網ニ全シ但大網船二艘手船四艘

ニシテ網繰リノ際六尺許ノ棒ヲ用ニテ
ニ水中ニ投ケ入レテ具魚ヲ駈リ入ルナリ
ル 家島宮浦調査ニヨル

縛網 籍傳網ニ同シ

拵網 津名郡ニ同シ但該網配置ニ終リタルハ碇ヲ却

コテ放置シ翌曉ニ至リ繰リ上ケ捕獲ス餌ハ蝦小烏
賊或ハキツウタケガウ虫ヲ用ニ家島宮浦調
査ニヨル

章魚漁

壺繩 明石郡ニ全シ

釣 津名郡ニ全シ

海鼠漁

海鼠漕網 三原郡ニ全シ

海鼠掛 漁船一艘ニ二人乗組海底ヲ視察シ該具ヲ以
テ之レヲ釣捕ス家島宮浦調
査ニヨル

鱒漁

打網 揖東郡ニ同シ

坪網 該漁ハ恰モ麻風ヲ建テタルカ如ク網ヲ折リ曲

ケテ装置シ入り口ハ陸ニ向ハシム而シテ中央ヨリ
 繩網ヲ引キ以テ陸ニ繫キ置クモノニシテ魚来レハ
 繩網ニ沿ヒ知ラス識ラス扉風様ノ罟中ニ入り遂ニ
 牢ル細ハ偶ハニ装置シタニ陥リ去ル能ハス即今之レヲ漢
 獲スハ白濱村調フニヨル

ツボ工貝漢 肩削 飾西郡給漢ニ同シ

竹煙漢

竹煙突 飾西郡ニ同シ

繚漢

中高細 漢船ニ艘ニ各六人乗組ニ該網ヲ乗ヒ外ニ手
 船一艘ニ二人乗組漕出ニ魚ノ群集ヲ認メ潮流ノ如
 何ニ拘ラズ直ニ網ヲ投シ左右ニ分シ弧線ニ之レヲ

敷キ尋テ縁上ケニ着手ス但シ「イ肩急ニ「ハ肩
 ハ緩ニ繰リ上ケ恰モ之レヲ抄ヒタル如ク「ハ十ニ
 トス 白濱村調ニヨル
 坪細 籬坪細ニ全シ

籬漢

大為持細 籬大為持細ニ全シ

釣 漢期五月ヨリ十二月ニテニテ該漢具ニ二種
 リ一ハ五六月ノ間本島ノ南沖手ハ三四里距ル
 処ニ於テ使用ス之レヲ獲タル籬ヲ入メ籬ト云フ一
 ハ十一月ノ間本島内各島嶼ノ海岸迄傍ニ於テ使用
 ス何レモ漢船一艘ニ二人乗組蝦ヲ餌料トシテ營業
 スルモノトス 家島宮浦調ニヨル

蝦漢

漕網 設漁獲物ハ車轍ニシテ漁法加古郡ニ全ニ村白濱

査ニ

海鰻鱺漁

採繩 漁期八月ニ至テハ漁船一艘ニ二人又ハ三人乗組ミ採繩十五桶ヲ積ミ島嶼ノ海岸ニ至リ日没ヲ待ツ島岸ヨリ凡三間許リノ所ニ於テ設網ヲ配置ス配リ終レハ直ニ之レヲ繰リ上ケ捕フ餌ヲ鰻サケテ赤雜臭ノ類ヲ用エ 家島宮浦調 査ニヨル

鰻漁

叩網 所謂ゴウ網ト同シ漁期ハ立春ヨリ百十日目頃ヲ始メト十ニ是ヨリ凡一ヶ月間ナリ漁船一艘ニ三人乗組ミ漕出テ網ヲ打テ廻シ急ニ曳キ網圍ノ區域ヲ挾ハメ以テ之レヲ揚ケ捕獲ス是レ鰻ニテ網ト幾

分使用法ヲ異ニスル所ナリ 家島真浦調 査ニヨル

釣 漁期六月ニ至レハ小漁船一艘ニ二人乗組ミ島嶼及沖合暗礁ノ所ニ至リ船ヲ子ラ工ニ船ヲ送レ流

ル并碇ヲ卸サズニテ船ヲ緩ク押釣糸ハ潮ニ流サレ止タルヲ方言子ラ工ト云フ 釣糸ハ潮ニ流サレモ其度ヲ考ヘ常ニ直線ニ垂ルル目的ヲ以テ之ヲ垂レ而シテ潮ニ流レテ之レヲ釣ルナリ其餌ハ鰻ヲ用エ但是レハ大鰻漁ニシテ小鰻漁ハ釣真鱸製ニシテ餌料ヲ用ヒサレナリ 家島宮浦調 査ニヨル

雜魚漁

手繰網 漁期八月ニ至レハ漁船一艘ニ二人乗組設網一疊ヲ積ミ海岸又ハ沖合ニ至リ細網一方ヲ樽ヲ海中ニ投シ續ヒテ圓月形ニ細ヲ卸シ終リテ其樽ノ所ニ歸リ舳艫ニ各一人宛設網ヲ取り繰リ揚ケ捕獲ス

ルナリ 家島宮浦調

為持網 所謂夕日網ナリ八月頃ヨリ使用スルモノ

ニニテ 漁船一艘ニ 設網一二疊ヲ積ニ二人乗組ニ夜

ニ乗テ 漕出シ 設網ヲ船腹ニ繫キ以テ海底ニ印シ而

ニテ 船艙ニケ所ニ帆ヲ揚ケ 終夜風向ニ隨ヒ横漕シ

海底所在ノ魚類ヲ搔キ取ルモノトス又設網ハ船ト

艦トニ各七尋ノ網ヲ付シ以テ之ニ括リ付ケリ又

之レヲ揚ケルニハ初メハ船ニ一人兩端ノ網ヲ合セ

取り後ニ至テ二人相合セ繰上ケルナリ 家島宮浦調

大為持網 鎌大為持網ニ全ニ

籍漁

縛網漁 赤穂郡ニ全ニ但設網ヲ繰リ上ケ魚ヲ取リ上

ケルナリ 村君 親方即チ細ヨリコトニ 艦ニ裝置モタル

表ノ如キノ上ニ登リ竿ヲ以テ二艘ノ網船ヲ押シテ

左右ニ開カレテ其間ニ自己ノ乗リタル手船ヲ入シ

横網ニテ其魚ヲ抄ヒ上ケルナリ若シ漁者ニ資本借

入レアル片ハ設抄ニ取リノ際一抄ヒナ十尾上ナリ

テ計算スルノ例ナリ 家島宮浦調

流セ 網 津各郡ニ全ニ

籍漁

縛網 籍縛網ニ全ニ

キス漁

釣 漁船一艘ニ一人乗リ組ニ海岸ヨリ十町以内ノ所

ニ於テ長一間許リノ竹竿ニテカスヲ以テ鉤ヲ付シ

餌料ヲボゴ貝ヲ用ヒ左舷ニテ櫓ヲ押シ右手ニ釣竿

ヲ持テ漕ナカラ捕獲ス 飾磨津田町

二ノ漁

大鯿 大貝漁法ニ全ク但「ウ」ハ鯛ノ餌料ニシテ淡路等、鯛漁者ニ販賣スルモノトス詔磨津天神町調査ニヨル

鯨漁

達網 漁期即チ十二月ニ至ルハ漁船一艘ニ二人或ハ

三人乗組談網凡百把ヲ繫テ夜ノ至ルヲ待テ陸ヲ距凡九十間許ノ沖手ヘ網ヲ卸シ放置ス翌朝ニ至リ之

釣

漁期十二月ヨリ三月ニテニテ小漁船一艘ニ三人或ハ四人乗組海岸又ハ暗礁ノ所ニ至リ日没ヲ待テ潮流ニ從ヒ流レテ談漁具ヲ垂レテ之ヲ釣ル餌ハ小蝦又ハゴロイ虫ヲ用ニ家島宮浦調査ニヨル

鰯漁

鰯網

漁期八九月ニ至ルハ浮標ヲ製シ本島ヲ距凡一里ノ邊ヨリ本島ト男鹿島トノ間ヨリ鳴門ヲ見通シ凡一丁ノ距離ニ幾線モ相列テ海面ニ浮ヘシム一線ノ浮標凡五十箇トス又各船相距凡一丁トス此ニ於テ漁船一艘ニ五人乗組漁網一疊ヲ積ミ談浮標ノ場ニ至リ談魚ノ有無ヲ視察ス若シ其未集ヲ認メタルハ竹ヲ以テ水面ヲ攪回シ或ハ潮上ヘ向ケ石ヲ投ケ込ム片ハ談魚ハ其声ヲ聞キ談石ニ向テ潮上ニ登ルモノナリ漁夫ハ此時ヲ機トシテ網ノ一端ヲ投シ續ヒテ圓形ニ敷キ廻シ初メ投シタル所ニ歸リ直ニ之ヲ繰上クルモノトス家島宮浦調査ニヨル

小鱸漁

打網 揖東郡鰯魚ヲ網漁ニ全ク

中高細 鯨漁 = 全シ

鳥賊漁

釣 鳥賊漁 = 全シ

鱸漁

中高細 鯨中 高細 = 全シ

拵縄 三原郡 = 全シ 但シ 餌ハ アナシヤクヲ用エ 村妻 調

ヨル =

釣 漁期四月 = 至テハ 小漁船一艘 = 二人乗組 島嶼海

岸其他暗礁ノ所 = 至リ潮上ヘ向ケ岸ヨリ沖手ヘ碇

ヲ卸シテ潮流ニ船ヲ横タヘ 鰈ヲ散布シテ 該魚ヲ誘

致シ即チ鰈ヲ餌トナシ以テ釣ヲ垂ト 漁スルモノ十

リ 家島宮浦調 査 = ヨル

第七款 有害漁法

ウタセ網ハ維新前マテハ僅少ノ漁數ナリニカ 降テ明治

五年頃ニ至リ漸ク増加セシヨリ 漁期等ノ制限ヲ約セ

シテアリタリニモ 其初チク 近年殊増加シ 濫獲甚シ為

ニ他ノ漁業ヲ害スル一少カラズ 妻 廠村調 ○妻廠村漁

者立網ヲ使用スルニ當リ船及海水ヲ叩クアリ 爲メニ 魚

ヲ驚威シ他ノ漁業ヲ防クルノ害アリ 阿成村調 ○大ウタ

セ網ハ天保八年頃ノ 祭明ニ係レリ當初ハ 毎年冬至ヨリ

翌年二月ヲ以テ使用ノ期トシ 本島ノ南沖合ヲ以テ 漁場

トセシモ 近來其慣行定限大ニ 乱シタリ又 雜魚ウタセ網

ニ 綱目ハ 明治初年頃ノ 創始ニ係リ 使用時季ニ 定リテ 而

シテ 海底ヲ攪乱シ 大ニ 其繁殖ヲ妨ケ 又 近來石漕キ 海

具ト 稱スル 細草ノ 網 釣 付セリ 製ニ 夜陰島嶼ノ 間チ 漕

海流ヲ捕テルモ、下リ為ニ苔藻ヲ生スル石ノ轉覆
 ナル、ナリ以テ魚類ノ栖息ヲ妨ケリ又明治十六年頃ヨリ
 二疊ゴ子稱スル鯛網ヲ以テ夜陰ニ乘テ島嶼間或ハ沖合
 暗礁ノ邊ヲ使用シ且板ノ類ヲ叩キ大音ヲ奏シ或ハ炬火
 ナ点セシヲ以テ諸魚皆散乱シ大ニ他ノ漁業ヲ妨害シ為
 ナニ漁業者多少衰頹ノ状ニ傾向セリ故ニ俗ニ之ヲ呼
 ニテ貪乏敵ト云フニ宮浦調査

第三章 蕃殖

第一款 生産期節

水族ノ生産スル期節左ノ如ニ
 水場村 眞備 磨津 宮野 町 田野

品名	卵ヲ孕ミタルモノヲ初メテ捕獲セシ月	卵ヲ孕ミタルモノヲ収メテ捕獲セシ月	卵ヲ孕ミタルモノヲ初メテ捕獲セシ月
鰯	七月	七月	七月
鰒	七月		
鰓	五月		七月
沙魚	十一月		
海鰒	五月		
鰈	二月		五月
鯛	四月上旬		七月
章魚	五月		七月
鱒	四月	五月	

鱸	鮫	雞魚	鯖	鱈	池魚	海鰻鱺	鰻	口黑鰻	海鼠
		八月	四月下旬	二月	五月		五月	六月	
七月	四月		六月	五月		六月	七月		六月

第二款 生産場

鮫、鰻魚、洲間、藻中、産卵、鰻魚、泥中、生、洲間、
 生育、ト云フ、鰻魚、津宮町、○鰻、雞魚、汝魚、洲間、藻中、
 産卵及生育、シ、カ、マ、泥中、生、洲間、生育、ト云フ
田町調査、○鰻、急潮、岩石、所、鯖、鱸、鮫、海鰻、海鰻、海岸
 、藻、鱧、砂泥、章魚、鰈、鰻、海底、沈没、諸物、文、石、等
 海鼠、海岸、岩石間、軟砂、海、底、軟、砂、又、泥、中、
 穿、千、産、卵、ス、鱈、鰻、如、キ、海、面、才、海、泳、ニ、ウ、放、卵、ス、ル
モ、ト、ス、真、浦、調査

第四章 漁民

第一節 營業、景況

水場村

本村漁業者、從來ニ戸ニテ増減ナシ但シ明治元年頃ハ相當ノ漁獲アリタリト雖モ未末不漁、為テ非常ノ衰頹ヲ見ハセリ

白濱村

地曳網漁ハ明治七年頃迄ハ二疊アリテ相當ノ牧利アリシカレ後雜魚ハタセ網漁追々増加シ為テ二年ノ不漁ニ趣キ遂ニ一疊ヲ減セリ其他ノ漁業モ總テ衰頹ノ景況ナリ

妻鹿村

維新後中高網ト唱フル密網行ハレ魚類ヲ濫獲シ妨害

ヲ與フルト少カラサリシカ田飾磨縣ヨリ其使用ヲ禁
 止セラレタルニヨリ多少其弊ヲ防遏スルニ至レリ然
 ルニ近年ウタセ網漁増加セシヲ以テ手操網漁ハ非常
 衰頹ニ陥レリ

阿成村 下中島村 飾磨津宮町 全大町 全須加町
 全田町 全上英加町 全御幸町

小漁者ハウタセ網ノ害ニヨリ近年衰頹ニ傾ケリ但田
 町ハ明治八年上英加町ハ同十年御幸町ハ同十八年以
 降ノ創業ニ係リ當初漁業者田町ハ廿五名上英加町ハ
 二名御幸町ハ一名ナリ

飾磨津天神町

本町ハ明治十年頃ヨリ創業ニ專ラ採貝ヲ營ム然ルニ
 遊漁者漸次増加シ貝類亦隨テ減少シ為テ營業者ハ

衰頹ニ陥レリ

家島宮浦

近來ウタセ網其他不良ノ漁具流行スルニヨリ漁業大
 ニ衰頹ニ趣ケリ○本島其他ノ諸島嶼近來樹木ヲ濫伐
 シ殊ニ男鹿島ノ如キハ石ヲ堀リ土砂ヲ崩シ山面白
 色ニ衰セシカハ為テ鰯魚ノ如キハ收穫大ニ減少セリ
 然ルニ明治十九年本郡長渡邊徹氏ノ獎勵ニヨリ男鹿
 及西ノ二島ヲ村中ノ共有トシ又本島及防勢島諸島
 嶼ノ如キモ等シク規約ヲ結ビ山番人ヲ置キ同年ヨリ
 向テ拾五ヶ年間則チ明治三十三年ニ至ル間下草ノ外
 伐採ヲ禁止シ他日蕃殖ノ場合ニ至ラハ之ヲ十五分
 ニ細漢民ヲシテ毎年其一部分ヲ伐採セシムルト十
 ニ以テ談山繁茂スレハ鰯魚ノ如キハ從前ノ如ク盛漢

減ニ回復セシムルノ見込ニテ之レヲ実行セリ
 明治元年ノ頃ハ拵繩釣手操漁業専ラニシテ雜魚為持漁
 業ハ甚タ少ナリ當時漁額凡三萬三千二百八拾六圓五
 拾五錢余ニシテ漁夫一人ニ付凡五拾六圓五拾二錢餘
 ノ割合ナリカ近年雜魚為持網漁業流行ノ為メ漁額
 大ニ減シ同十九年ニハ凡五千三百五十二圓五拾錢余
 一人ニ付凡拾三圓五拾八錢餘ノ割合ナリ非常ニ衰
 類セリ

家島防勢浦

漁業ノ景況宮浦ニ同シ但明治元年頃ノ漁額凡壹萬四
 千五百八十六圓三拾錢漁夫一人ニ付五拾四圓六拾三
 錢ナリ同十九年ニハ漁額金二千百五十四圓五拾錢一
 人ニ付凡金拾三圓五拾八錢余ノ割合ナリ又明治

家島真浦

元年頃ハ大網五疊アリシカ目下一疊ニ減セリ
 鯛ニ網等不良ノ漁具流行ノ為メ明治十年頃ヨリ鱒
 鱒類ノ漁獲漸ク減少シテ其業振ハス同十三年頃ハ
 漁夫モ亦大ニ減セリ尔後漁額ノ稍増加ノ景況ナリ
 近年漁網世上一般大ニ増加シ捕漁追々繁劇ナルカ
 為メ反テ衰類ヲ加フルノ有様ナリ
 以上各地ノ概況ヲ記述セリ尚左表ヲ掲ケテ郡内一般ノ
 状ヲ示スヘシ

漁業概表

種別	曳網類 量	刺網類 全
本場村		
白濱村	一	
妻麻村		
阿成村		
下中島村		
宮浦		二
大町		
天神町		
須賀町		二
田町		一
妻麻町		
街幸町		
家島	一一	一
防勢浦	三	
真浦	七	
合計	二二	六

漁業者、種別、如左、營業種別

種別	水場村	白濱村	妻原村	阿成村	下中島村	鉢磨町	大町	天神町	須賀町	田町	美賀町	新町	宮浦	防勢浦	真浦	合計
給子採屑者					三			二								一五
鹽井總漁者				二		八	一		八				二			二三
飯井總漁者						二	一		八							三九
鰻魚建網漁者			六	一		四			四	二	二					八二
鰻魚走網漁者					一											一〇
鰻魚鹽網漁者				二	四				四	二	二					四七
烏賊釣漁者													二			一二
鰻魚網漁者													三	七	五	五二九
鰻地網漁者														六	八	九七
種別																

漁民數人	漁船艘數	釣魚類數	叉釣類數	繩釣類數	手釣類數	掩網類全	旋網類全	敷網類全	線網類全	建網數
二	二							二		
六〇	一八							五	一八	
四一〇	一四〇					三〇		三	一一三〇	二〇〇
五一	一九			一一二	四〇	二		五	二〇	七二〇
一五	六		六			二	二〇			
八六	三一			一八九		二				二
一一	四			三〇〇						
一二			四							
二四	九			二四〇		二		一	六	二
六	四				四	三				一
二	一					三				
一	一					三				
三九四	二〇九		三〇	一八〇	一八〇		二	一	一二二	
一九五	八六	六					一		六〇	一六七
四五二	一一〇	二					四		一六七	五二
二七二	六五〇	八	一一〇	四二二	二四二	四七	二七	一七	一七	二二七

兵庫縣



加工償却セシムルヲ例トス就中大為持網漁、
 如キハ捕獲物ノ中鯨魚ヲ以テ償却セシムルモ、
 トス而シテ資本主ハ魚生船云フ買トシテ乘リ其漁者所
 在ノ沖合ニ漕出シ該捕獲物ヲ納ムルノ例ナリ
 官浦調査

雇夫 漁期中普通漁者ノ役スル本村ノ漁夫ニシテ
 一ヶ年ヲ二期ニ分テ四月ヨリ十月マテノ七ヶ月
 ヲ夏期トシ十一月ヨリ翌年四月迄、五ヶ月ヲ冬
 期トシ普通漁者ヨリ前金ヲ借り毎日割合ニテ之
 ヲ拂フモノトス雇ノ内其掌凡職ニヨリ左ノ名称
 アリ

船頭 他ノ漁夫ヲ指揮シ漁業ヲ擔當シ網ノ構
 造等ヲ掌ル

平働キ 船頭ノ指揮ヲ受ケ漁業一切ノ雜事ニ
 使役セラレ

右雇ヲ要スル數ハ漁事ノ難易ニヨリ差異アリト
 虽モ漁船一艘ニ二人ヨリ三人トス別ニ給料ナク
 捕魚賣上ケ金ヲ三人乗テハ四分ニテ其一分ヲ
 金主ニ三分ヲ漁夫三人ニ分配ス二人乗ルモ亦之
 レニ準ス 妻廠村調 ○雇夫漁期中ノ賃錢支給ノ割
 合ハ拵繩釣漁業ハ漁獲金ノ内雜費ヲ引去リ殘金
 ヲ五分ニ一分ヲ漁船一艘ニ一分ヲ漁具ニ三分漁
 者三人ニ分配ス又打網建網漁業ハ三分ニ一分ヲ
 船網ニ二分ヲ漁夫二人ニ分配ス以上雇夫ハ概シ
 シテ当町漁夫ノ家族ナリ他村ヨリノ雇入レハ僅
 ナ數人ニ過キナリ備入約定スルモ前貸ト

唱、前年十二月一人ニ付金二三圓ヲ借り、漢期中
 差支ナカラシニ為、定約書ヲ交換ス調飾 津字所 ○
 漢期中普通漢者ノ役スル漢夫ハ、總テ本浦、モノ
 ナリ但細我及小我ノ雇夫ハ、真浦防勢浦ヨリ雇入
 シ毎年節季ニ至ラハ、翌春使役スル為、前金若干
 ヲ貸与ス如クスルハ、半途他へ轉スル、患ナシ但
 シ雇夫ハ年中使役スルニヤラス、總テ漢期中ノモ
 ノニシテ毎年五月上旬頃雇入レ八月迄ニ解雇ス
 此間ナ一切ト唱フ又秋冬二期ノ業ニ使役スル者
 ハ、此際更ニ前金若干ヲ貸與へ傭役ス就中秋季ノ
 モ、ハ十一月ニテナ期トシ解傭ス冬季ノモ、ハ
 翌年四月ニテナ期トス、諛雇夫ハ平働ニシテ方言
 船方ト云ヒ船頭、指揮ヲ受ケ漢事一切ノ雜事ニ

使役セラル、モノナリ諛雇夫ノ數ハ漢事ノ難易
 ニ依リテ差異アリト、至モ大細我ハ一艘ニ凡三十
 五人乃至四十五人小我ハ一人乃至三人トス、給料
 ハ細我ハ總テ引上高三割ヲ細手ノ分トシ、殘金ニ
 テ入費ヲ引去リ其餘ヲ以テ諛漢者ノ數ニ割リ配
 当ス但、眞見役ノモ、ハ一人當リ、外尚割當ノ
 半ヲ給ス、拵繩我諸釣我ハ、總テ釣上金高一割ヲ繩
 手トシテ引去リ、殘金ニテ入費ヲ引キ其餘ヲ漢者
 數ニ割與スルノ例ナリ家島宮浦調 査ニヨル
 見習 十五歳未滿ノモ、ハニテ方言之レヲエ、
 ント云フ漢事ノ難易等ニヨリ一人役ノ内、幾分ヲ
 割リ當テ支給スルモノニシテ、專ラ漢事ノ手間ヲ
 取り雜務ニ從事シテ漢業ヲ見習フモノナレハ、極

ノ簿給ナリ
妻鹿村調
查ニヨル

兵庫縣漢業慣行錄卷之十終

兵庫縣